77-20L100000003

TEAC

取扱説明書

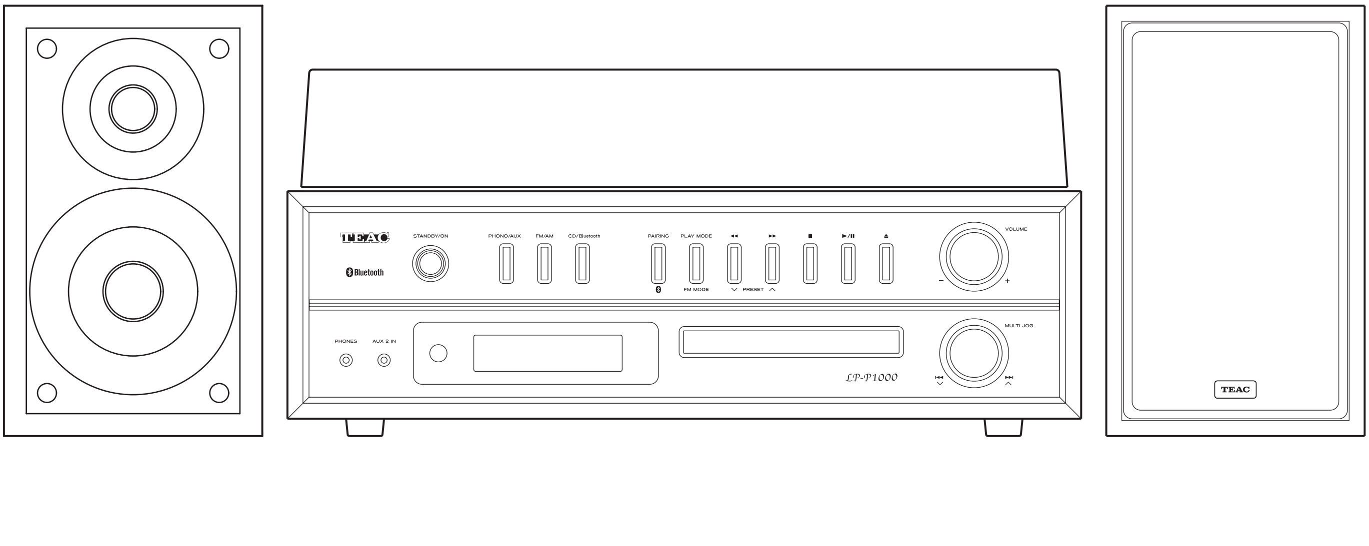
LP-P1000

ターンテーブルオーディオシステム

Bluetooth®

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



目　次

安全にお使いいただくために 3
お使いになる前に 6
ディスクについて 6
MP3/WMA について 8
電波について 9
レコードの取り扱い 10
レコード針の交換 11
接続 12
各部の名称 (本体) 14
各部の名称 (リモコン) 16
リモコンの使い方 17
各部の名称 (ターンテーブル) 18
ターンテーブルカバー 19
時刻合わせ 20
基本操作 22
CD を聴く 25
プログラム再生 28
リピート / シャッフル再生 31
MP3/WMA ファイルについて 33
Bluetooth 機器を聴く 35
Bluetooth 機器をペアリングする 36
レコードを聴くには 37
ラジオを聴くには 39
放送局のプリセット 41
目覚ましタイマー 43
スリープタイマー 46
接続した機器の音を聴く 46
困ったときは 47
仕様 49
保証とアフターサービス (よくお読みください) . . 51

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.

Fraunhofer Institut Integrierte Schaltungen

The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by TEAC CORPORATION is under license.

その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、快適な生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

警告	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) に修理をご依頼ください。
禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら (芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) に交換をご依頼ください。
	交流 100 ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (20cm 以上) 離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から 40cm 以上、背面から 10cm 以上のすきまをあける** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的 (年 1 回くらい) に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く **通電状態の放置やお手入は、漏電や感電の原因となることがあります。**
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のケーブルを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。

愛情点検

電源ケーブルや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5 年に 1 度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) に内部の点検をご依頼ください。
費用についてはお問い合わせください。

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告　乾電池に関する注意

禁止	**乾電池は絶対に充電しない。** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

警告　電池に関する警告

強制	**電池を入れるときは、極性表示 (プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き) に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。** 間違えると破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく。 液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない。** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない。** 破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなるところで保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

注意　電池に関する注意

禁止	**金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。** ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない
分解禁止	**分解しない。** 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

お使いになる前に

付属品の確認

万一、付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社 AV お客様相談室 (裏表紙に記載) にご連絡ください。

スピーカー 1 ペア
リモコン (RC-1312) x 1
ドーナツ盤用アダプター x 1
LP・EP 盤用サファイヤ針 (装着済み)
ターンテーブル保護ラバーシート x 1
ターンテーブルカバー x 1
ヒンジ x 2
リモコン用乾電池 (単 3) x 2
AM アンテナ x 1
FM アンテナ (ケーブルタイプ) x 1
ステレオミニプラグケーブル (50cm) x 1
スピーカーケーブル (3m) x 2
取扱説明書 (保証書付き)(本書) x 1

使用上の注意

- ターンテーブルカバーの上には物を置かないでください。特に再生中は、振動でノイズが発生したり、物が落下する恐れがあります。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。
- 再生中はディスクが高速回転しているので、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。
- 本機を移動したり、引っ越しなどで梱包する場合は、必ずディスクを取り出してください。ディスクを内部に入れたまま移動すると、故障の原因となります。

ユーザー登録について

TEAC のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。
http://teac.jp/support/registration/

ディスクについて

本機で再生できるディスク

「COMPACT disc DIGITAL AUDIO」(コンパクト ディスク デジタル オーディオ)
ロゴマークのある CD

音楽 CD フォーマットで正しく記録され、ファイナライズされた CD-R および CD-RW。
または、MP3/WMA ファイルが記録され、ファイナライズされた CD-R および CD-RW。

本機は上記のディスクをアダプターなしで再生することができます。上記以外のディスクは再生できません。

⚠ **注意**
上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。

- コピーコントロール CD や Dual Disc など、CD の標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

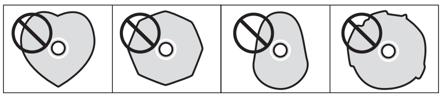
CD-R/CD-RW について

本機は音楽 CD フォーマット (CD-DA) と MP3/WMA 形式で記録された CD-R/CD-RW を再生することができます。

- CD レコーダーで作成したディスクは、忘れずにファイナライズしてください。
- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。
- CD-R や CD-RW ディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクの発売元にお問い合わせください。

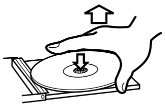
使用上の注意

- ヒビが入ったディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて再生ができなくなる場合があります。
- 市販の CD 用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ハート形や八角形など特殊形状の CD は、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

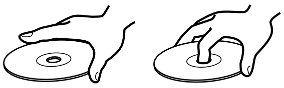


ディスクの取り扱い

- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- 信号記録面 (レーベルがない面) に傷、指紋、汚れなどがあると、再生時にエラーの原因となることがありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。



取り出し方



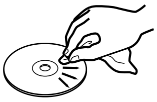
持ち方

ディスクの保存について

- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。ディスクが変形・変質して、再生できなくなるおそれがあります。
- CD-R/CD-RW は、通常の CD と比べて熱や紫外線の影響を受けやすいため、直射日光が当たる場所や熱を発生する器具の近くなどに長時間放置しないでください。
- ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

お手入れ

- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

MP3/WMA について

本機は CD-R/CD-RW に記録された MP3/WMA ファイルを再生することができます。

- 再生可能オーディオファイルフォーマット
  MP3 (拡張子「.mp3」)
  ビットレート　8k ～ 320kbps
  サンプリング周波数　16k ～ 48kHz
  WMA (拡張子「.wma」)
  ビットレート　8k ～ 320kbps
  サンプリング周波数　32k、44.1k、48kHz

  ※ DRM(Digital Right Management) には対応していません。
- フォルダーの階層は 8 階層まで対応

ファイル情報の表示について

本機のディスプレーは、半角のアルファベットと数字 (1 バイト文字) の表示のみに対応しています。日本語や中国語などの全角文字 (2 バイト文字) が使われている場合、ファイル再生は可能ですが、ディスプレーに文字が正しく表示されません。（文字化けを起こします。）

パソコンを使って MP3/WMA ファイルを作成する際の注意

- ISO9660 規格で記録されていないディスクは再生できません。
- MP3/WMA ファイルの認識はファイル拡張子 (MP3 の場合は「.mp3」、WMA の場合「.wma」) で行います。ファイル名には必ず拡張子を付けてください。
- 拡張子のないファイルは認識できません。また、ファイル名に拡張子をつけていても MP3 または WMA データ形式でないファイルは再生できません。
- CD-R/CD-RW への記録後は、クローズセッション (ディスクの作成を完了) してください。クローズセッションされていないディスクは再生できません。
- 本機で再生できる最大ファイル数は 999、最大フォルダー数は 99 です。最大数を超えて記録されている場合は、1000 番目以降のファイルや 100 番目以降のフォルダーは正しく再生できない場合があります。
- マルチセッションで記録されたディスクには対応していません。最初のセッションのみ再生します。
- ディスクの状態によっては、本機で再生できなかったり、音が途切れすることがあります。
- 著作権保護された音楽ファイルは本機で再生することはできません。

電波について

- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
  - ・分解 / 改造すること
  - ・本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

2.4 FH 1

本機は、2.4GHz 帯を使用します。変調方式としてFH-SS 変調方式を採用し与干渉距離は 10 m です。本製品は日本国内でのみご使用ください。

- 本機は電波を使用しているため、第 3 者が故意または偶然に傍受することが考えられます。
重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
通信時に、データや情報の漏洩が発生しても責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 次の場所では本機を使用しないでください。
再生音が途切れたり、ノイズが出る場合があります。
  - ・2.4GHz 用周波数帯域を利用する、無線 LAN、電子レンジ、デジタルコードレス電話、Bluetooth などの機器の近く。
電波が干渉して音が途切れることがあります。
  - ・ラジオ、テレビ、ビデオ、BS/CS チューナーなどのアンテナ入力端子を持つ AV 機器の近く。
音声や映像にノイズがのることがあります。

本機使用上の注意

本機の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、免許を要する工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局や免許を要するアマチュア無線局などが運用されています。
他の機器との干渉を防止するために、以下の点に十分ご注意いただきご使用ください。
・本機を使用する前に、近くで他の無線局が運用されていないことを確認してください。
・万一、本機と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、使用を停止してください。
・不明な点その他にお困りのことが起きたときは、お買い上げの販売店または AV お客様相談室 (裏表紙に記載) へお問い合わせください。

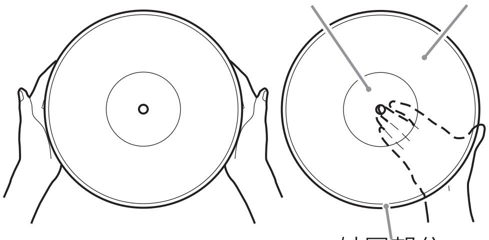
Bluetooth® について

携帯電話等 Bluetooth 機器と本機の距離は約 10m 以内で使用してください。
ただし使用状況によっては通信有効範囲が短くなることがあります。
全ての Bluetooth 機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。
本機と Bluetooth 対応機器との互換性については、各 Bluetooth 対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、お買い上げの販売店または、弊社 AV お客様相談室 (裏表紙に記載) にお問い合わせください。

レコードの取り扱い

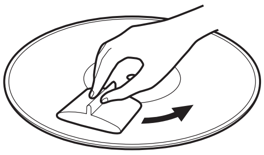
レコードの持ち方

レコードを持つとき、ケースから取り出すときは、音溝部分に手を触れないように、レーベル部と外周部分を支えて持つか、両手でレコードの外周部分を手ではさむように持ってください。



お手入れ

- 指紋やほこりがつくと、雑音や音飛びの原因となり、レコードや針を傷めます。市販のレコードクリーナーなどでクリーニングしてください。レコードクリーナー以外のベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- レコードクリーナーを使用する場合は、音溝に沿って円を描くように拭き取ってください。

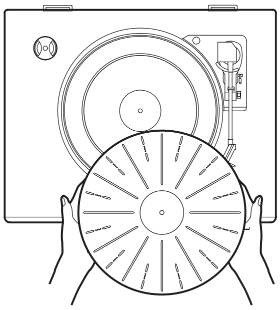


使用上の注意

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所には置かないでください。長時間放置するとそりなどの原因となります。
- レコードは、何枚も積み重ねたり、重いものをのせたりしないでください。また、斜めにして長時間放置しないでください。そりや破損の原因となります。
- 音溝部は、硬いものに直接触れないようにしてください。傷の原因となります。
- 再生が終わったレコードは、必ずケースに入れて保管してください。そのまま放置すると、そりやキズの原因となります。
- ヒビが入ったレコードは使用しないでください。

ラバーシートの取り付け

ターンテーブルに付属のターンテーブル保護ラバーシートをのせて使用してください。



- ラバーシートには裏表があります。上図のように放射状に線がある面を上にしてください。

レコード針の交換

- レコード針は精密な部品ですので、針先が曲がったり破損したりしないように、丁寧に扱ってください。曲がったり破損したりすると、音溝を正確にトレースできなくなり、レコードを傷めたり、故障の原因となります。
- レコード針が汚れたら、市販の針先 (スタイラス) クリーナー等でクリーニング清掃してください。
- 針先を硬いもので強くこすったりしないでください。また、ベンジン、シンナーなどで拭かないでください。劣化や破損の原因となります。

レコード針の交換

レコード針は、使用するとすり減って音が悪くなり、レコードを傷めます。お早めに当社指定の交換針にお取り換えください。
取り換えの目安は LP · EP 盤用 (サファイヤ針) の場合は約 50 時間、SP 盤用 (ダイヤモンド針) の場合は約 100 時間となります。

注 意

- 突然大きな音が出ることがありますので、機器の電源を切ってから交換してください。
- 手や機器を傷付けないよう、ご注意ください。
- 小さなお子様があやまってレコード針を飲み込まないよう、ご注意ください。

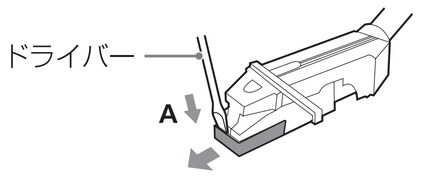
交換針 (別売)

「STL-103」: LP•EP 盤用サファイヤ針 (3 個入り)
「SPL-102」: SP 盤用ダイヤモンド針 (2 個入り)
交換用のレコード針については、お買い上げの販売店、もしくはティアック修理センター (裏表紙) までお問い合わせください。

レコード針 (赤い部分) を外す

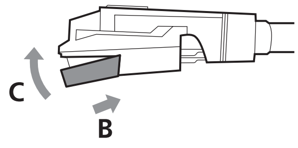
1 本機の電源を切る。

2 カートリッジを手で押さえて、レコード針手前の段差部分を小さいドライバーなどを使って A の方向に押し下げてから、手前に引いて外す。



新しいレコード針を取り付ける

1 B の方向へ差し込んで針の爪部をカートリッジの爪受けに合わせる。

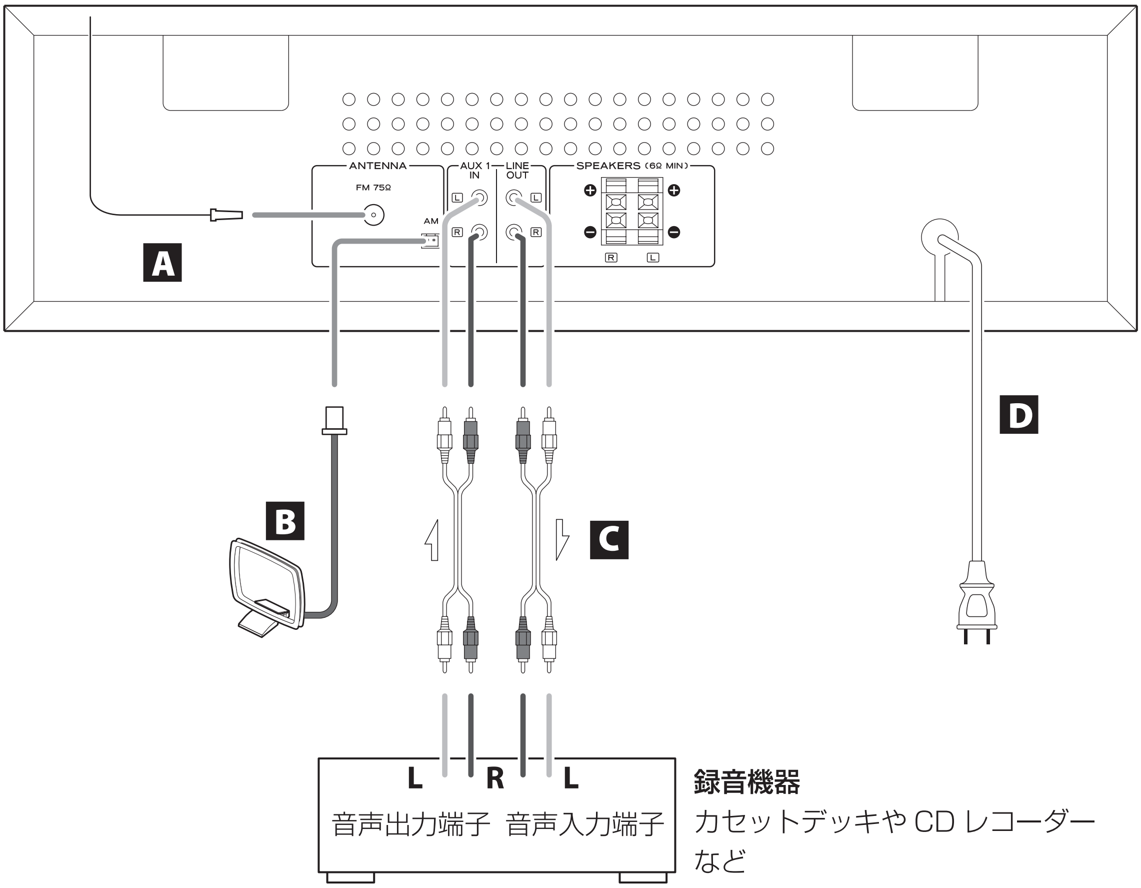


2 C の方向へパチンとはまるまで押し上げる。

接続

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。



A FM アンテナ

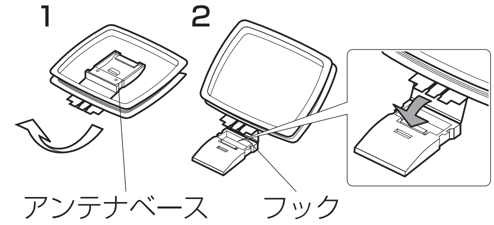
アンテナを伸ばし、受信状態が最もよくなる位置の窓枠や壁などにアンテナを固定してください。

B AM アンテナ

付属の AM ループアンテナを組み立て、リアパネルの AM アンテナ端子に接続します。
AM 放送の受信中に受信状態が最もよくなる位置に設置してください。

AM アンテナの組み立て方

AM アンテナを組み立てるには、アンテナベースを矢印方向に回して起こし、アンテナループの下側のフックをアンテナベースの長穴に差し込んでください。



C アナログ音声入出力端子 (AUX 1 IN/LINE OUT)

アナログの音声が入出力されます。
市販のオーディオケーブルを使って、各機器と本機の入出力端子を接続してください。

- カセットデッキや CD レコーダーなどの録音機器と接続して使うときは、録音機器の出力端子を本機の AUX 1 IN の端子に、録音機器の入力端子を本機の LINE OUT 端子に接続してください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。また、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因になります。

アナログ音声入力端子は、フロントパネルとリアパネルにあります。
フロントパネル側の端子 (AUX 2 IN) とリアパネル側の端子 (AUX 1 IN) の両端子にケーブルが接続されている場合、フロントパネル側の端子 (AUX 2 IN) が優先されます。
(AUX 2 IN) にプラグが差し込まれていない状態では、リアパネル側の端子 (AUX 1 IN) が使用されます。

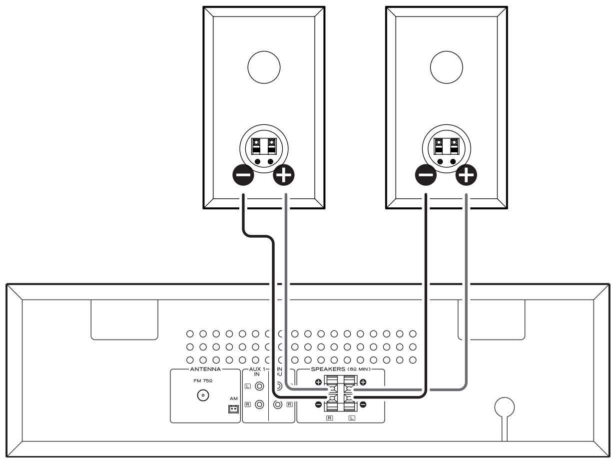
D 電源プラグ

電源プラグを交流 100V の電源コンセントに差し込んでください。

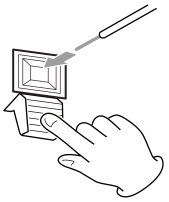
⚠ **交流 100 ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。**
電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。
長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

スピーカーの接続

付属のスピーカーケーブルを使って、スピーカーと接続してください。



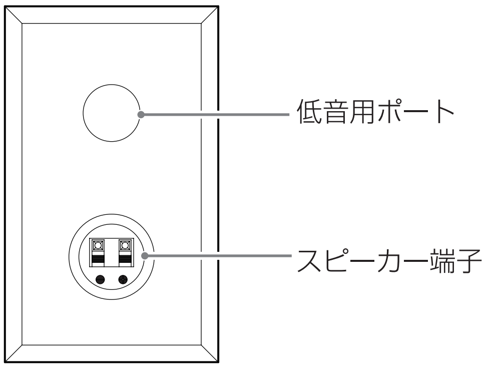
レバーを押した状態で、スピーカーケーブルの端部 (被覆が剥かれている部分) を差し込み、レバーを離してスピーカーケーブルを接続します。本体側、スピーカー側ともに接続してください。



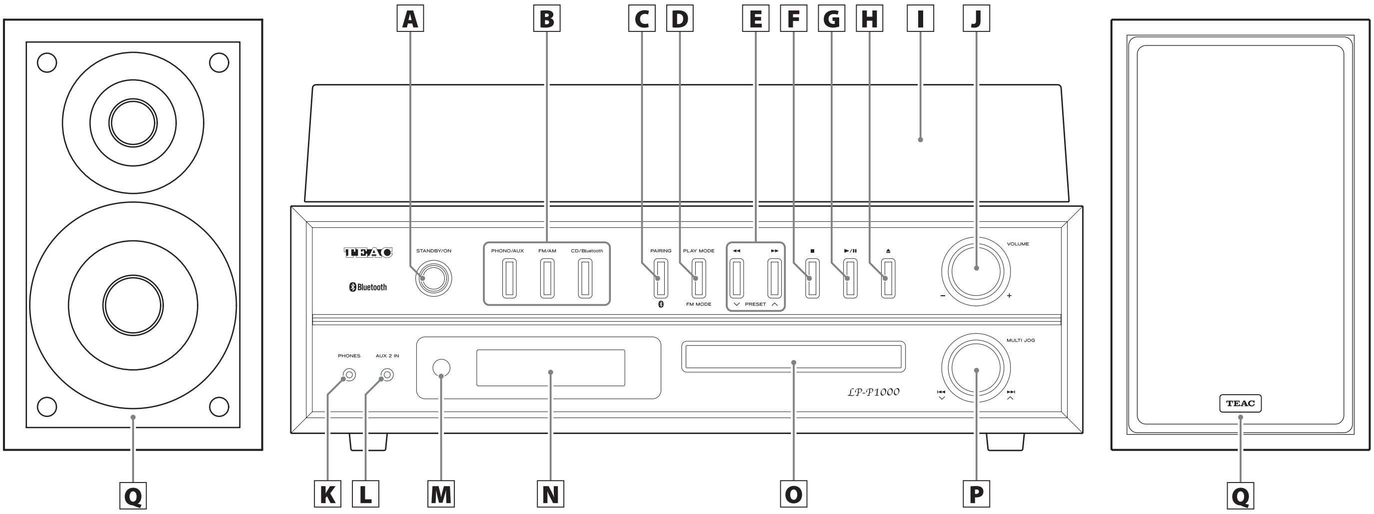
⊕ スピーカーケーブルの赤いマークがある方をスピーカーの赤の端子に接続してください。
⊖ スピーカーケーブルの色のついていない方をスピーカーの黒の端子に接続してください。

- コードを軽く引っ張って、きちんと固定されていることを確かめてください。
- 端子には、被覆が剥かれている部分だけが挿入されていて、被覆が端子に当たっていないことを確認してください。
- スピーカーケーブルの先端の芯線が露出している部分が、他のケーブルや端子に接触するとショートすることがあります。
- スピーカーケーブルは絶対にショートさせないでください。
- 雑音を防ぐため、スピーカーケーブルは電源コードなどその他のケーブルと一緒に束ねないでください。

スピーカーの背面にある低音用ポートを物や壁などで塞がないように設置してください。



各部の名称 (本体)



A 電源ボタン (STANDBY/ON)

電源のスタンバイ / オンを切り換えます。オンのときボタンの周囲が青く光ります

B ファンクション切換ボタン (PHONO/AUX、FM/AM、CD/Bluetooth)

レコードを聴くときは PHONO/AUX ボタンを押して「PHONO」を選んでください。
外部入力端子 (AUX 1 IN、AUX 2 IN) に接続した機器の音を聴くときは、PHONO/AUX ボタンを押して「AUX」を選んでください。
CD を聴くときは CD/Bluetooth ボタンを押して「CD」を選んでください。
Bluetooth 機器を聴くときは CD/Bluetooth ボタンを押して「Bluetooth」を選んでください。
ラジオを聴くときは FM/AM ボタンを押してください。FM/AM ボタンを押すたびに、FM と AM が切り換わります。

C ペアリングボタン (PAIRING)

Bluetooth 機器とペアリングするときや Bluetoothの接続を解除するときに使用します。(35、36 ページ)

D 再生モードボタン (PLAY MODE)
FM モードボタン (FM MODE)

CD、MP3/WMA ファイルを聴くときに再生モード (通常、リピート、シャッフル) を変更します。(31 ページ)

FM ラジオを聴くときに、ステレオとモノラルを切り換えます。(40 ページ)

E サーチボタン (◀◀ / ▶▶)
選局ボタン (PRESET ∨/∧)

CD の再生中に押し続けると、早送り / 早戻しになります。(27 ページ)

ラジオを聴くときは、プリセットチャンネルの選局に使用します。(42 ページ)

F 停止ボタン (■)

CD の再生を停止します。

G 再生 / 一時停止ボタン (▶ / ❚❚)

CD や Bluetooth 対応製品の停止 / 一時停止中に押すと再生を開始します。
再生中に押すと一時停止します。

H 開 / 閉ボタン (⏏)

ディスクトレーを開閉します。

I ターンテーブルカバー

J 音量つまみ (VOLUME)

音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

K ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンをお使いになるときは、まず電源をオンにして音量を下げてから、ヘッドホンプラグ (φ 3.5mm ステレオミニプラグ) をヘッドホン端子に差し込み、徐々に音量を調節してください。

- ヘッドホンを耳にかけたまま、電源のオン / オフまたは、ヘッドホン端子の抜き差しを行わないでください。(ヘッドホンから大きい音が、発生することがあります)
- ヘッドホン端子にプラグが挿さっている場合は、スピーカーから音は出なくなります。

L アナログ音声入力端子 (AUX 2 IN)

アナログの音声を入力します。
携帯用音楽プレーヤーなどのヘッドホン端子と接続する場合、フロントパネルのアナログ音声入力端子 (AUX 2 IN) に付属のステレオミニプラグケーブルを使って接続してください。この場合、携帯用音楽プレーヤー側の音量も調節してください。ただし、携帯用音楽プレーヤーの音量を上げすぎると、音が歪むことがありますので注意してください。

M リモコン受光部

リモコンを使用するときは、リモコンの先端をここに向けて操作してください。

N ディスプレー

曲番、時間、FM/AM の受信周波数などを表示します。

O ディスクトレー

P スクロール / スキップつまみ
(MULTI JOG/⏮ ⏭/∨ ∧)

ラジオ受信中の選局に使用します。(40 ページ)

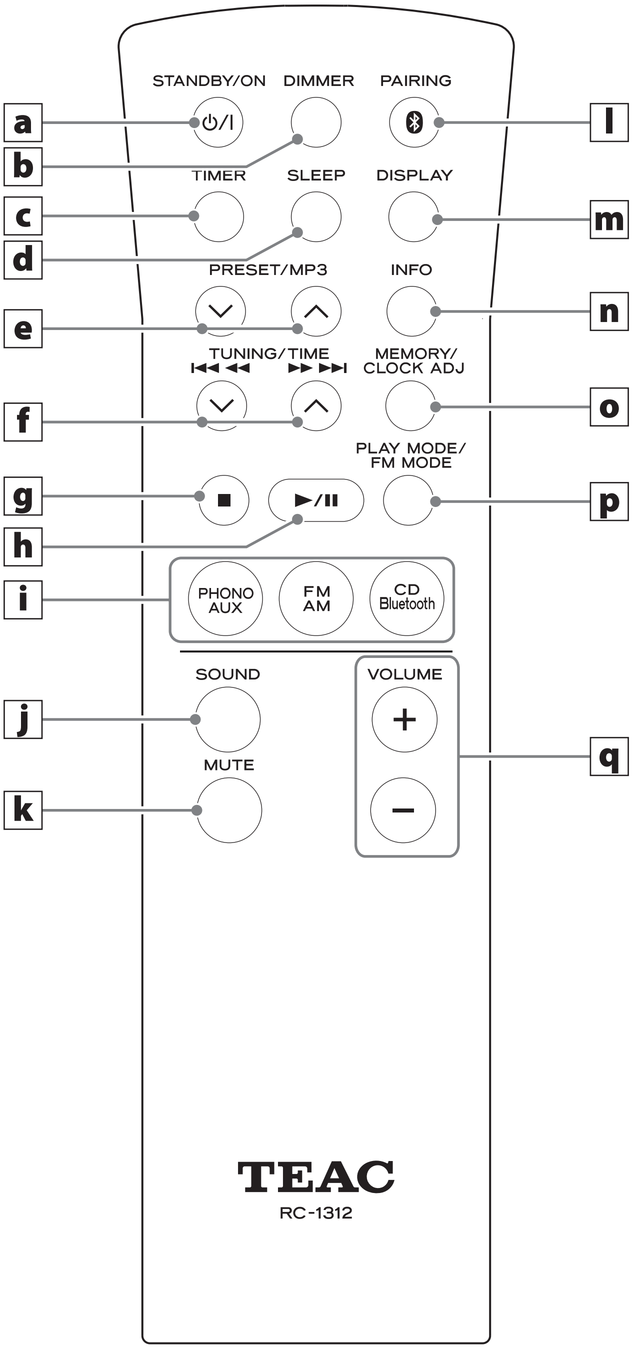
また、現在時刻の設定や、目覚ましタイマーの設定に使用します。(20 ページ、43 ページ)

CD を聴くときは、前または次の曲にスキップします。(27 ページ)

Q スピーカー 右 / 左

スピーカーをお好みの場所に設置してください。

各部の名称（リモコン）



本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書ではいずれかのボタンを使って説明していますが、記載されていない方のボタンも同様に使えます。

a 電源ボタン (STANDBY/ON)

b ディマーボタン (DIMMER)

ディスプレーの明るさを調節します。(24 ページ)

c タイマーボタン (TIMER)

目覚ましタイマーのオン / オフを切り換えます。(43 ページ)

d スリープボタン (SLEEP)

スリープタイマーの設定に使います。(46 ページ)

e 選局 /MP3 ボタン (PRESET/MP3 ∨/∧)

ラジオを聴くときは、プリセットした放送局を選択します。(42 ページ)

MP3/WMA ディスクを聴くときは、フォルダー番号を選択します。(28 ページ)

f チューニング / 時間ボタン (TUNING/TIME ∨/∧)
スキップ / サーチボタン (⏮ ◀◀ ▶▶ ⏭)

ラジオを聴くときは、マニュアル / オート選局します。(40 ページ)

MP3/WMA ディスクを聴くときは、ファイル番号を選択します。(28 ページ)

時刻合わせ、目覚ましタイマーの設定をするときは、時間の設定を変更します。(20 ページ、43 ページ)

CD を聴くときは、前または次の曲にスキップします。CD の再生中に押し続けると、早送り / 早戻しになります。(27 ページ)

g 停止ボタン (■)

再生を停止します。

h 再生 / 一時停止ボタン (▶/II)

停止 / 一時停止中に押すと再生を開始します。
再生中に押すと一時停止します。(26 ページ)

i ファンクション切換ボタン

(PHONO/AUX、FM/AM、CD/Bluetooth)

レコードを聴くときは PHONO/AUX ボタンを押して「PHONO」を選んでください。
外部入力端子 (AUX 1 IN、AUX 2 IN) に接続した機器の音を聴くときは、PHONO/AUX ボタンを押して「AUX」を選んでください。

ラジオを聴くときは FM/AM ボタンを押してください。FM/AM ボタンを押すたびに、FM と AM が切り換わります。
CD を聴くときは CD/Bluetooth ボタンを押して「CD」を選んでください。
Bluetooth 機器を聴くときは CD/Bluetooth ボタンを押して「Bluetooth」を選んでください。

j サウンドボタン (SOUND)

低音や高音、左右の音量バランスを調節します。(23 ページ)

k 消音ボタン (MUTE)

一時的に音を消します。(24 ページ)

l ペアリングボタン (PAIRING)

Bluetooth 機器とペアリングするときや Bluetoothの接続を解除するときに使用します。(35、36 ページ)

m 表示ボタン (DISPLAY)

FM/AM、CD/Bluetooth を選択しているときに押すと現在時刻が表示されます。

n 情報表示ボタン (INFO)

MP3/WMA ディスクを聴くとき、ディスプレーに表示される情報を切り換えます。(34 ページ)

o メモリー / 時刻合わせボタン (MEMORY/CLOCK ADJ)

ラジオを聴くときは、放送局のプリセットに使います。(41 ページ)

時刻合わせをするときに使用します。(20 ページ)

p 再生 /FM モードボタン (PLAY MODE/FM MODE)

CD を聴くときに再生モード (通常、リピート、シャッフル) を変更します。(31 ページ)

FM ラジオラジオを聴くときに、ステレオとモノラルを切り換えます。(40 ページ)

q 音量ボタン (VOLUME ＋ / －)

音量を調節します。＋ボタンを押すと大きくなり、－ボタンを押すと小さくなります。

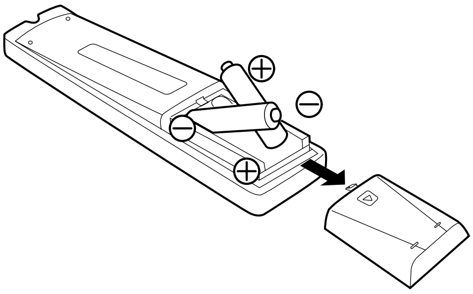
リモコンの使い方

使用上の注意

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5 メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- 本体のリモコン受光部に日光や照明が干渉すると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させせることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの＋と－の表示に合わせて乾電池 (単 3 形)2 本を入れて、フタを閉めてください。



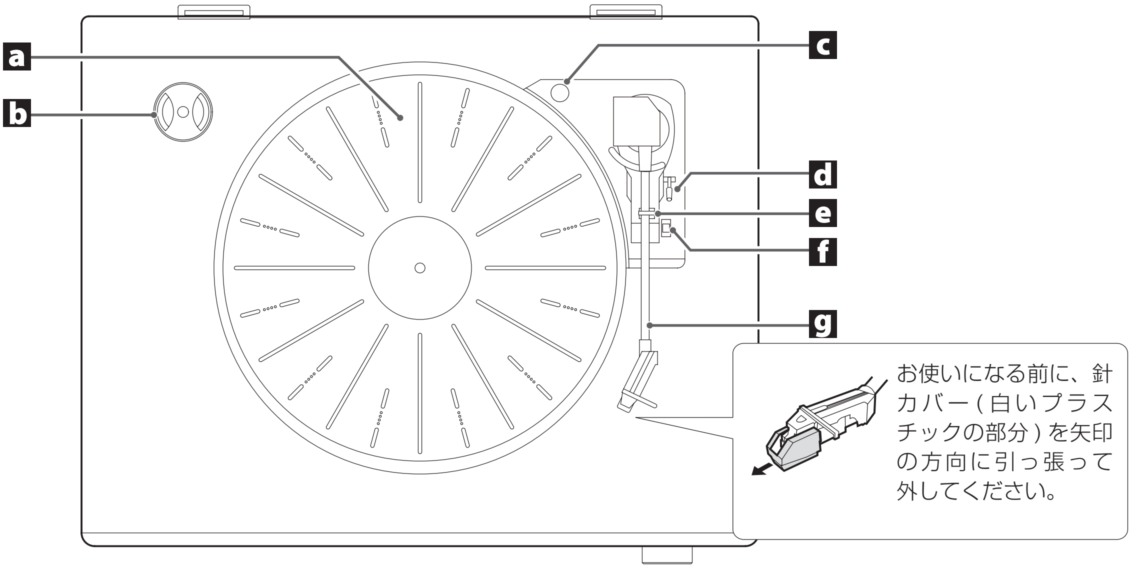
電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2 本とも新しい電池に交換してください。使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

⚠ 電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。5 ページの注意をよく読んでご使用ください。

各部の名称（ターンテーブル）



a ターンテーブル

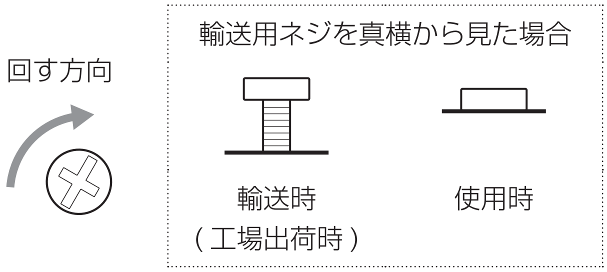
レコードをターンテーブルの中心にはめてください。

b EP アダプター

ドーナツ (EP) 盤を再生するときにお使いください。

c 輸送用ネジ

お使いになる前に、輸送用のネジをコインなどを使って時計回りに止まるまで回してください。



引っ越しなどで本機を輸送するときは、ネジを反時計回りに止まるまで回して固定してください。

d キューレバー

トーンアームをレコード盤から浮かせるときに使います。

e トーンアームホルダー

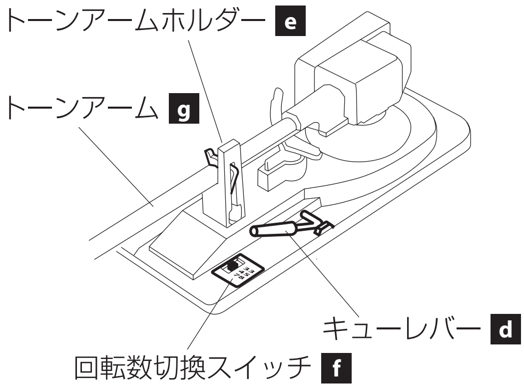
トーンアームの支持台です。レコードを再生する前に、留め具を右にずらすようにしてはずしてください。

f 回転数切換スイッチ

レコードに合わせて回転数を切り換えてください。

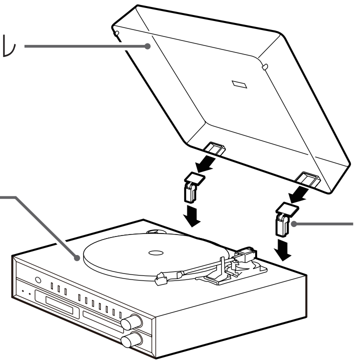
g トーンアーム

トーンアームを内側へ動かすと、ターンテーブルが回り始めます。



ターンテーブルカバー

ターンテーブルカバーの取り付け



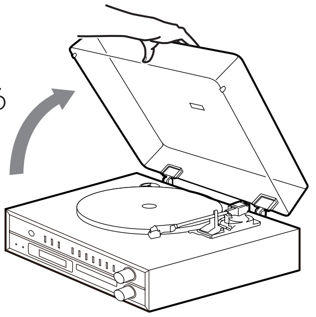
1 **本体背面の左右両端にあるヒンジ差し込み部にヒンジを合わせて、奥まではめ込みます。**

2 **ヒンジの上部にターンテーブルカバーのヒンジ差し込み部を合わせ、はめ込みます。**

ターンテーブルカバーの外し方

ターンテーブルカバーの両端を持ち、ゆっくり上へ引き、ヒンジごと本体から外します。さらにターンテーブルカバーからヒンジを外します。

ターンテーブルカバーの開閉



開けるとき

ターンテーブルカバーの前端を持って、カバーが止まるまで軽く持ち上げて開きます。
ターンテーブルカバーは開いたままにの状態になります。

閉めるとき

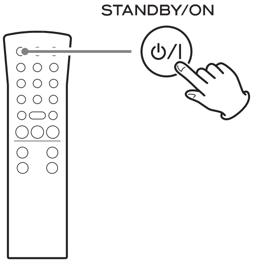
ターンテーブルカバーをゆっくりと下ろします。

⚠ **ターンテーブルカバーを開閉するときは、指などを挟まないようにご注意ください。**

時刻合わせ

お使いになる前に、現在時刻を設定してください。
電源がスタンバイの状態で設定してください。

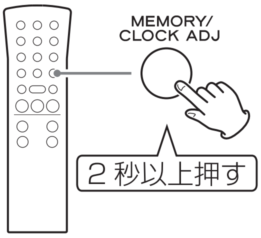
1 電源ボタン (STANDBY/ON) を押してスタンバイ状態にする。



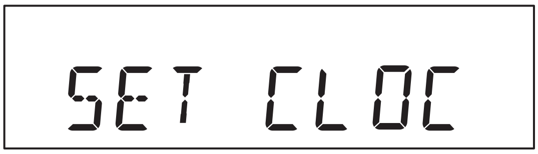
注意

本体の電源ボタンの周囲が青く光っていない状態がスタンバイ状態です。電源が ON の状態では時刻合わせ出来ませんのでご注意ください。

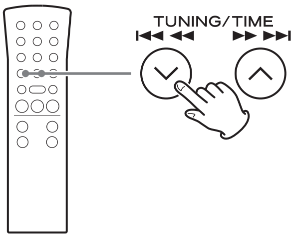
2 時刻合わせボタン (CLOCK ADJUST) を 2 秒以上押す。

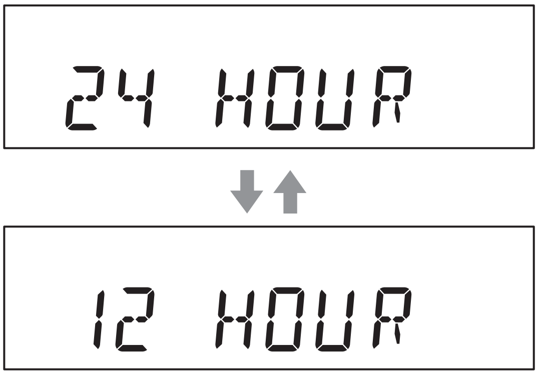


「SET CLOCK」がスクロール表示されます。



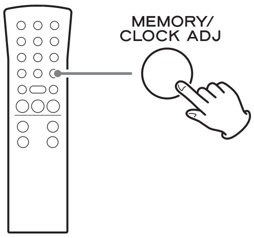
3 時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して「24 HOUR (24 時間)」と「12 HOUR (12 時間)」の表示を選択する。





- 20 秒以上設定状態を放置すると、時刻合わせモードは解除されます。

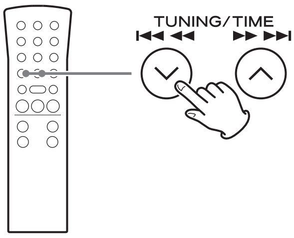
4 時刻合わせボタン (CLOCK ADJUST) を押す。



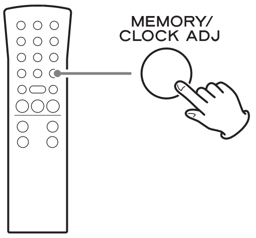
表示例

「 時 」表示が点滅します。

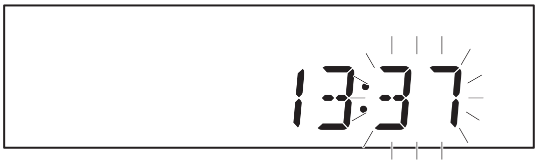
5 時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して「時」を合わせる。



6 時刻合わせボタン (CLOCK ADJUST) を押す。

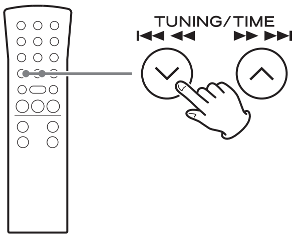


表示例

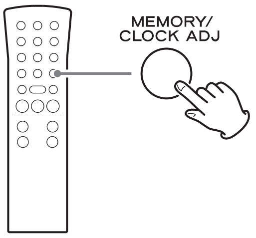


「 分 」表示が点滅します。

7 時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して「分」を合わせる。



8 時刻合わせボタン (CLOCK ADJUST) を押す。



以上の操作で時間設定が完了しました。

時刻合わせが終了し、合わせた「分」の 0 秒からスタートします。

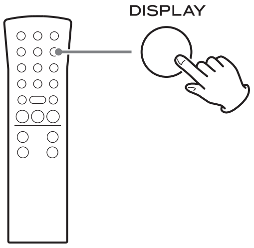
- 停電時や電源プラグからコンセントが抜かれた場合には現在時刻やタイマー設定の情報が消去されます。

現在時刻の表示

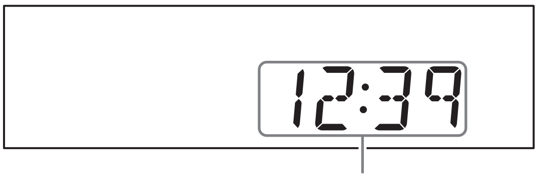
時計は、電源がスタンバイのときと、ファンクションが PHONO/AUX のときは常にディスプレーに表示されます。

リモコンの表示ボタン (DISPLAY) を押すと、ディスプレーの表示が切り換わります。

- CD、FM/AM のとき現在時刻は 3 秒間表示されます。



表示例

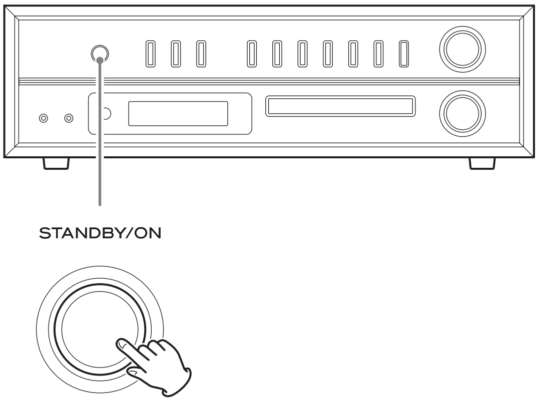


現在の時間

- ファンクションが AUX/PHONO 及び Bluetooth の場合には、表示ボタン (DISPLAY) は機能しません。
- ファンクションが Bluetooth の場合、ペアリング中のみ現在時刻が表示されます。

基本操作

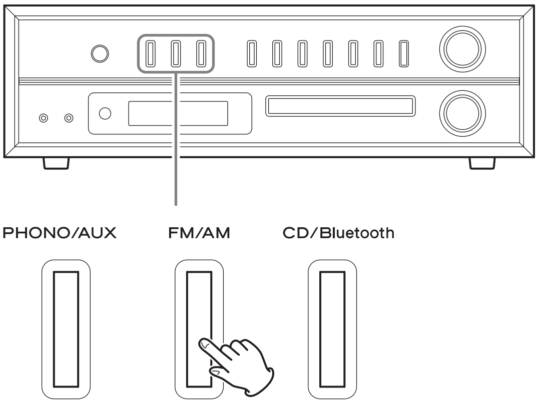
1 電源ボタン (STANDBY/ON) を押して電源をオンにする。



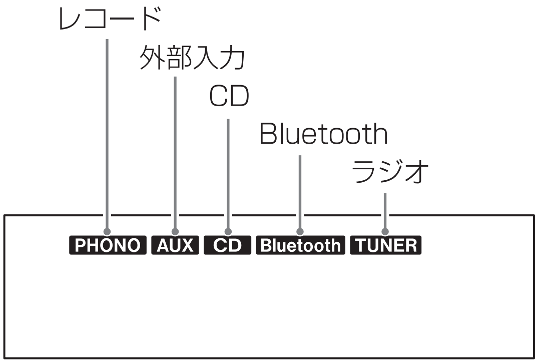
電源ボタン (STANDBY/ON) の周囲が青く光ります。

- スタンバイ状態でファンクション切換ボタンを押しても、電源がオンになります。

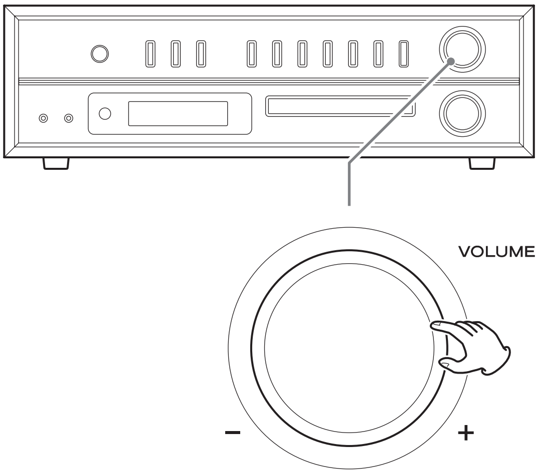
2 ファンクション切換ボタンを押して再生するソースを選ぶ。



各再生ソースを選んだとき、ディスプレーにインジケータが表示されます。



3 音量つまみ (VOLUME) を回して音量を調節する。



MIN(0) : 最小音量 (無音)
MAX(40) : 最大音量

音量は時計回りに回すと大きくなり、反時計回りに回すと小さくなります。

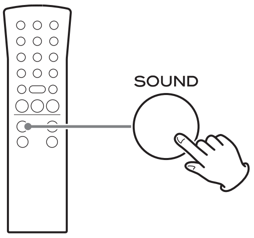
- 初期値は「VOL 20」です。
- 音量つまみ (VOLUME) を回すと、音量の値が約 3 秒間表示されます。
- 音量は最小時に「MIN」、最大時に「MAX」と表示されます。

⚠ 突然大きな音が出ると、聴覚障害などの原因になることがあります。音量は最小にしておいて、音を出してから適切な音量に調節するようにしてください。

- 本機を使わないときは、電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にしてください。

音質やバランスを変える

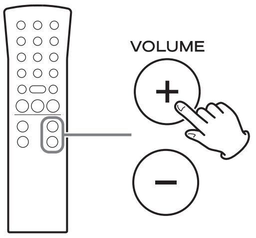
1 **サウンドボタン (SOUND) を押して、変更したい設定モードを選ぶ。**



サウンドボタン (SOUND) を押す毎に以下の順番で項目が変わります。

BASS（低音域） → TREBLE（高音域） → BALANCE（バランス） → 通常の表示 → BASS（低音域）

2 **3 秒以内に音量ボタン (VOLUME ＋ / −) を押して、設定を変更する。**



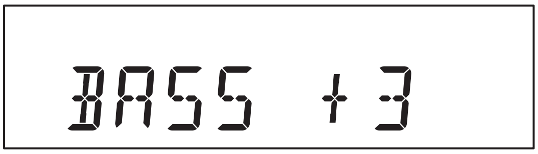
3 **3 秒間そのままにして、設定モードを終了する。**

設定できる項目と設定

BASS（低音域）

低音域を調整します。
設定できる範囲 : − 5 ～ +5
初期値 : 0

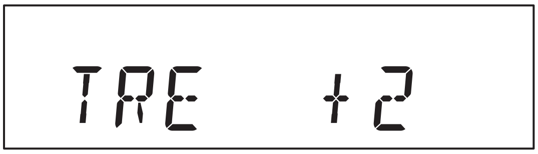
表示例



TREBLE（高音域）

高音域を調整します。
設定できる範囲 : − 5 ～ +5
初期値 : 0

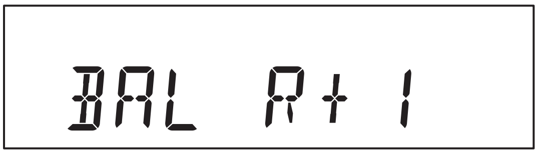
表示例



BALANCE（バランス）

左右のバランスを調整します。
設定できる範囲 : L +10 ～ R +10
初期値 : CENTER

表示例



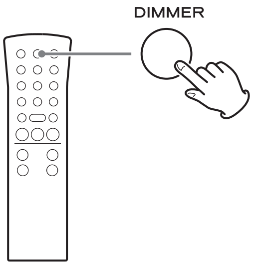
通常は中央 (BALANCE CENTER) に設定してください。

基本操作（続き）

ディスプレーの明るさを調整する

ボタンを押す毎に以下のように明るさが変わります。

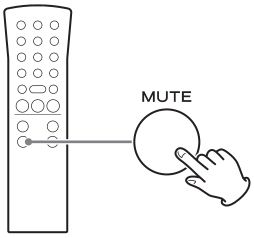
→ 通常 → 暗い → 非常に暗い ─┐（最初に戻る）



- 電源をスタンバイ状態にするとディマー機能は解除されます。

一時的に音を消すには

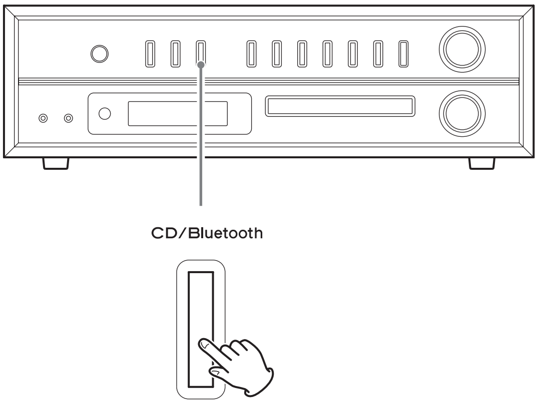
消音ボタン (MUTE) を押すと一時的に音を消すことができます。もう一度押すと元の音量に戻ります。



- ミュート機能が働いているときは、ディスプレーに「MUTE」が表示されます。
- ミュート機能が働いているときに音量を調整すると、ミュート機能は解除されます。
- ミュート機能が働いているときにソースを切り換えると、ミュート機能が解除されます。

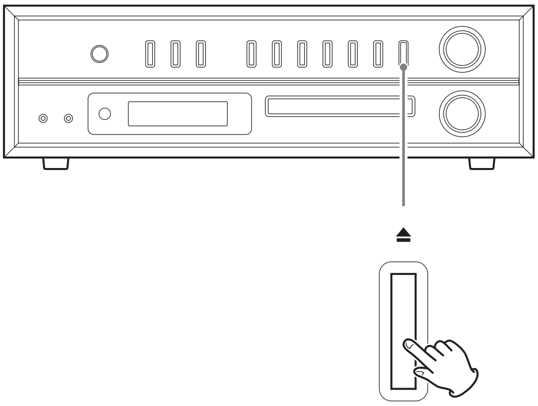
CDを聴く

1 ファンクション切換ボタン (CD/Bluetooth) を押して「CD」を選ぶ。



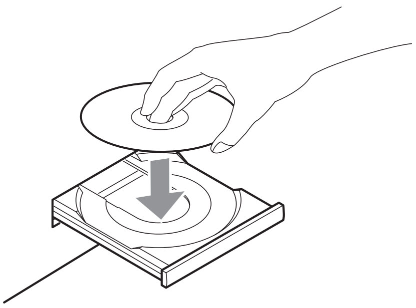
CD/Bluetoothボタンを押すたびに、CDとBluetoothが切り換わります。
CDに切り換えると、「DISC」が表示され、「READING」が数秒間点滅し停止状態になります。ディスクがセットされていないときは、「NO DISC」が表示されます。

2 開 / 閉ボタン (⏏) を押して、トレーを開ける。



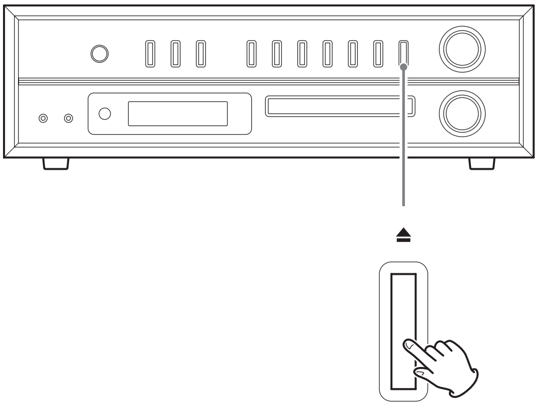
ディスクトレーが手前に出ます。

3 ディスクのレーベル面を上にしてトレーの中央にのせる。



- トレーには2枚以上ディスクをのせないでください。
- ディスクが中央のガイドから外れた状態でトレーを閉じると、ディスクが中で引っかかりトレーが開かなくなることがありますので、ディスクは必ずトレーの中央のガイドにしっかり合わせて置いてください。
- トレーの開閉動作中は、手で無理やり開け閉めしないでください。

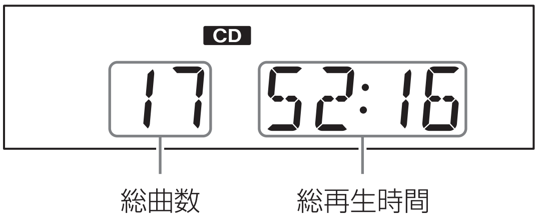
4 開 / 閉ボタン (⏏) を押して、トレーを閉める。



ディスクトレーが閉まります。指を挟まないようにご注意ください。

- ディスクの読み込みには数秒かかります。「READING」が表示されている間は、ボタンを押しても機能しませんので、ディスプレーにディスクの情報が表示されるまでお待ちください。

音楽用CD表示例



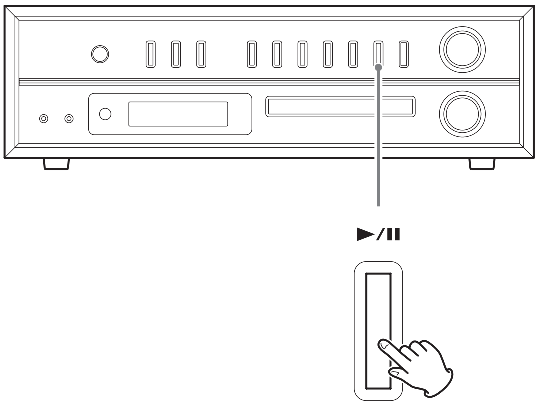
MP3/WMAディスク表示例

- 音楽用のディスク以外は、内容を検知して再生を始めることがありますが、音は出ません。
- WMAディスクの場合はディスプレー左側に「WMA」と表示されます。

次のページへ続きます。➡

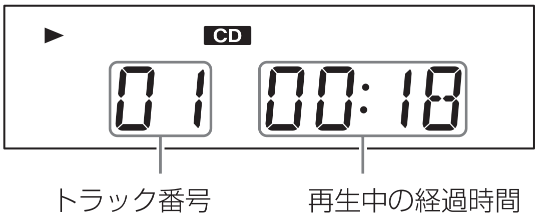
CD を聴くには (続き)

5 再生 / 一時停止ボタン (►/II) を押す。



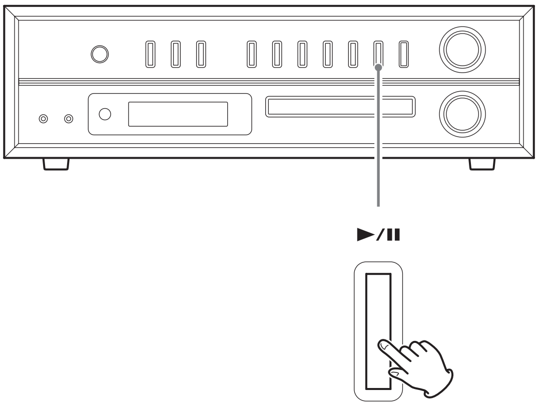
1 曲目から再生が始まりディスプレーに ► が点灯します。

表示例



- ディスクトレーを閉めずに再生 / 一時停止ボタン (► / II) を押した場合、自動的にトレーが閉まり再生が始まります。
- フォルダーに入っていない MP3/WMA ファイルは、「001(ROOT)」フォルダーにあります。再生は「001(ROOT)」フォルダーの 1 曲目から始まります。
- MP3/WMA の再生順序については 33 ページをご覧ください。
- 全ての曲の再生が終わると、自動的に停止します。

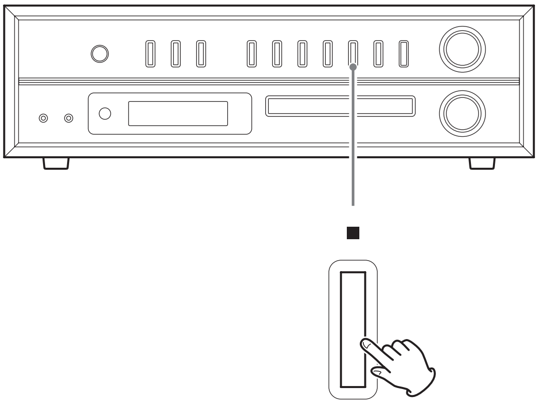
再生を一時停止するには



再生 / 一時停止ボタン (► / II) を押すと再生が一時停止します。
一時停止中に再生 / 一時停止ボタン (► / II) を押すと、一時停止したところから再生を始めます。

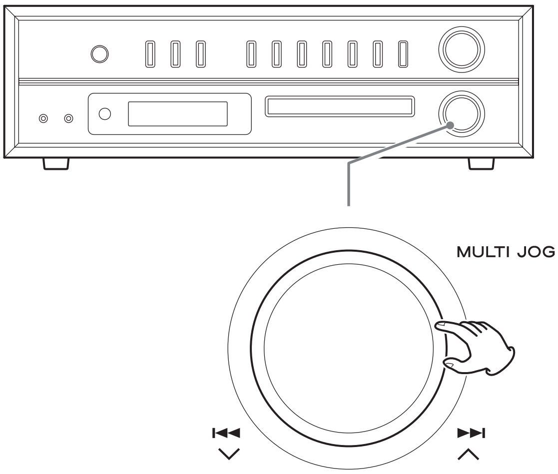
- 一時停止中は再生時間が点滅します。

再生を停止するには



停止ボタン (■) を押すと再生が停止します。

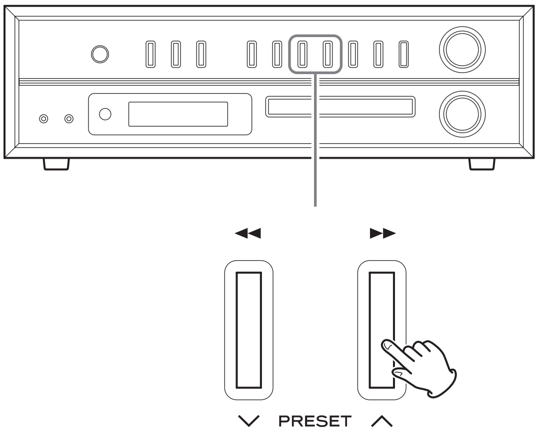
好きな曲から再生するには (スキップ)



再生中にスキップつまみ (⏮ / ⏭) を回すと前または後ろの曲にスキップして再生を始めます。希望する曲番になるまで回してください。

- 停止中は、スキップつまみ (⏮ / ⏭) で選曲したあと、再生 / 一時停止ボタン (▶ / ⏸) を押して再生を始めてください。
- 再生中は、⏮ 側に少し回すと再生中の曲の頭に戻ります。それより前の曲を再生したいときは、さらに ⏮ 側に回してください。

聴きたい部分を探すには (サーチ)



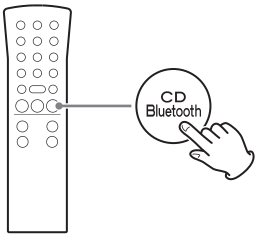
再生中にサーチボタン (◀◀ / ▶▶) を長押しすると、早送り / 早戻しができます。指をはなすと通常再生に戻ります。

プログラム再生

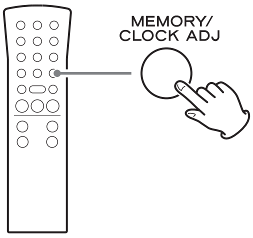
CD、MP3/WMA ディスクを再生したい順番に 32 曲までプログラムすることができます。
プログラムは停止中に行ってください。

プログラムを設定する

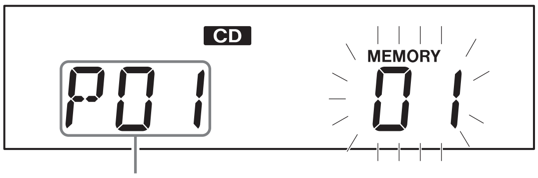
1 ファンクション切換ボタン (CD/Bluetooth) を押して「CD」を選ぶ。



2 停止中にメモリーボタン (MEMORY) を押す。



表示例

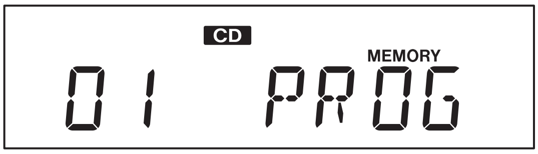


プログラム番号

曲番またはフォルダー番号、ファイル番号とMEMORY インジケーターが点滅します。

- プログラムを中止するには、停止ボタン (■) を押すか、20 秒以上放置します。
- プログラムを行った後に 20 秒以上放置するとプログラムを行ったところまで確定されます。

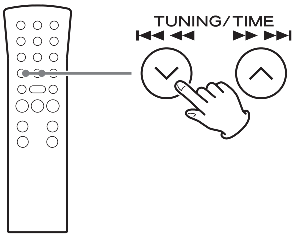
プログラム確定時の表示例



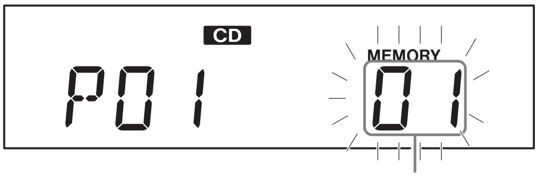
3 プログラムする曲を選ぶ。

音楽用 CD の場合

スキップ / サーチボタン (⏮◀◀ ▶▶⏭) を押して曲番を選びます。



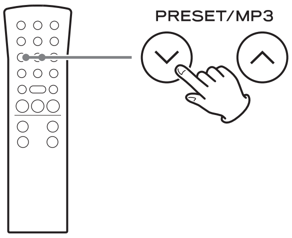
表示例



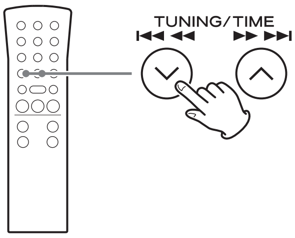
曲番

MP3/WMA ディスクの場合

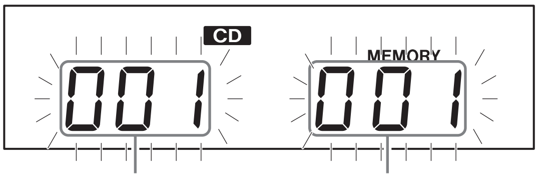
フォルダー番号を選ぶには、MP3 ボタン (MP3 ∨/∧) を押します。



ファイル番号を選ぶには、スキップ / サーチボタン (⏮◀◀ ▶▶⏭) を押します。



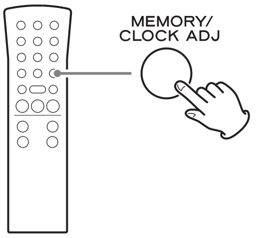
表示例



フォルダー番号　ファイル番号

- フォルダーに入っていない MP3/WMA ファイルは、「001(ROOT)」フォルダーにあります。
- フォルダー番号またはファイル番号を変更すると、MEMORY インジケーターのみ点滅します。

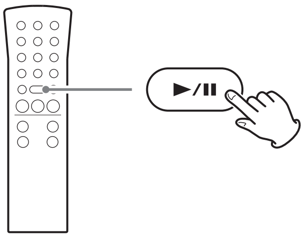
4 **メモリーボタン (MEMORY) を押す。**



選択した曲がプログラムされ、プログラム番号に「P02」が表示されます。

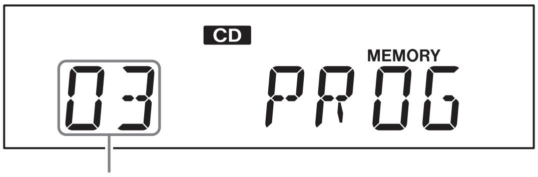
- 複数の曲をプログラムするには、**3**〜**4**の手順を繰り返してください。
- プログラムを中止するには、停止ボタン (■) を押します。

5 **プログラムが終わったら、再生 / 一時停止ボタン (►/II) を押してプログラム再生を始める。**



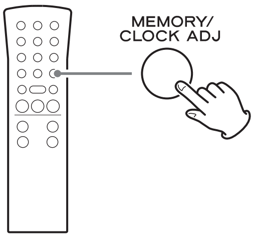
- プログラム再生を中止するには、停止ボタン (■) を押します。この場合、プログラム内容は保持されます。
- プログラム再生中にスキップ / サーチボタン (I◄◄ ◄◄ ►► ►►I) を押して、プログラム中の他の曲を選ぶことができます。本体で操作するときはスクロールつまみ (MULTI JOG) を回してください。
- プログラム再生中にシャッフル再生 (31 ページ) はできません。
- プログラム再生が終了すると以下のような表示になります。

表示例



プログラム総数

プログラムの順番をチェックする

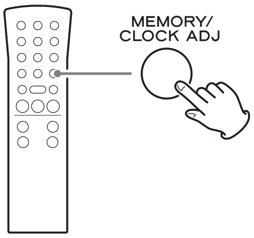


停止中にメモリーボタン (MEMORY) を押すたびに、プログラム番号とプログラムした曲番が順番に表示されます。

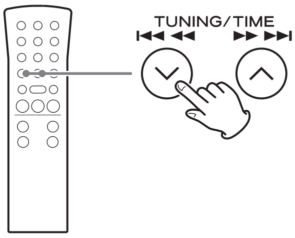
プログラムの最後に曲を追加する

1 停止中に、メモリーボタン (MEMORY) を繰り返し押して、最後のプログラム番号の次の番号を表示させる。

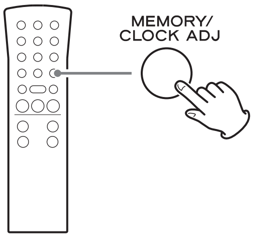
音楽用 CD の場合は曲番と、MEMORY インジケーターが点滅します。
MP3/WMA ディスクの場合はフォルダー番号、ファイル番号と MEMORY インジケーターが点滅します。



2 プログラムに追加する曲をスキップ / サーチボタン (|◀◀ ◀◀　▶▶ ▶▶|) を押して選ぶ。



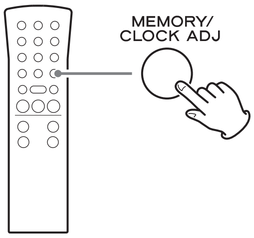
3 メモリーボタン (MEMORY) を押す。



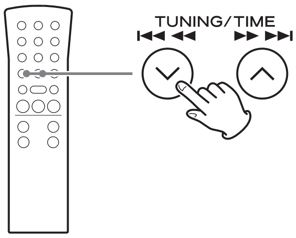
選択した曲がプログラムの最後に追加されます。

プログラムの一部を書き換える

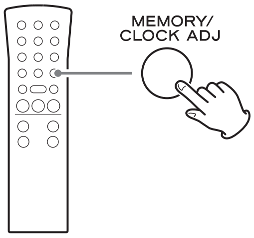
1 停止中に、書き換えたいプログラム番号が表示されるまでメモリーボタン (MEMORY) を繰り返し押します。



2 新しくプログラムしたい曲をスキップ / サーチボタン (|◀◀ ◀◀　▶▶ ▶▶|) を押して選ぶ。

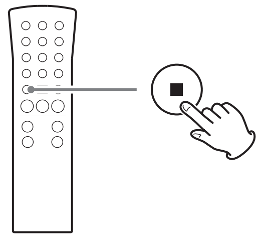


3 メモリーボタン (MEMORY) を押す。



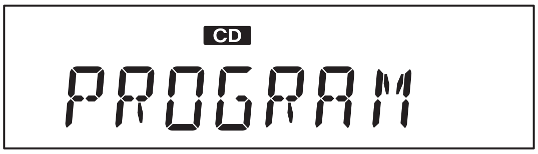
選択した曲に書き換えられます。

全てのプログラム内容を消去する



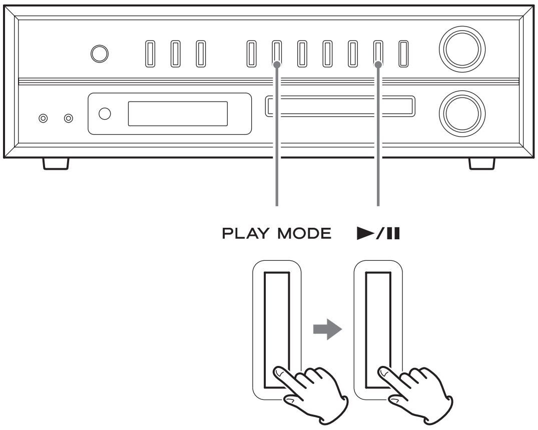
停止中に停止ボタン (■) を 2 秒以上押す。
プログラム内容は消去されます。

プログラム内容が消去されると、ディスプレーに「PROGRAM CLEAR」がスクロール表示されます。



- 以下の場合にも、プログラム内容は消去されます。
  - ・電源がスタンバイになったとき
  - ・ファンクション切換ボタン (PHONO/AUX、FM/AM、CD/Bluetooth) を押してソースを切り換えたとき
  - ・ディスクトレーを開けたとき

リピート / シャッフル再生



ファンクションが CD のとき、プレイモードボタン (PLAY MODE) を押すたびに、以下のように再生モードが変わります。

オーディオ CD

REPEAT (1 曲リピート)
↓
REPEAT ALL (全曲リピート)
↓
SHUFFLE (シャッフル)*
↓
オフ (通常再生)
（REPEAT (1 曲リピート) に戻る）

MP3/WMA ディスク

REPEAT (1 曲リピート)
↓
REPEAT FOLDER (フォルダーリピート)
↓
REPEAT ALL (全曲リピート)
↓
SHUFFLE (シャッフル)*
↓
オフ (通常再生)
（REPEAT (1 曲リピート) に戻る）

聴きたいモードを表示した状態で、再生 / 一時停止ボタン (►/II) を押してください。再生が始まります。
* : シャッフルを選択すると自動再生になります。

次のページへ続きます。➡

- 再生中にプレイモードボタン (PLAY MODE) を押して再生モードを切り換えることもできます。
- 以下の場合に、再生モードはキャンセルされます。
  - ・停止ボタン (■) を押したとき
  - ・電源がスタンバイになったとき
  - ・ファンクション切換ボタン (PHONO/AUX、FM/AM、CD/Bluetooth) を押してソースを切り換えたとき
  - ・ディスクトレーを開けたとき

リピート再生

REPEAT(1 曲リピート)

再生中にプレイモードボタン (PLAY MODE) を 1 度押すと、ディスプレーに「REPEAT」と表示され、再生中の曲が繰り返し再生されます。

- 1 曲リピート再生中に本体のスキップつまみ (⏮/⏭) またはリモコンのスキップ / サーチボタン (⏮ ◀◀ ▶▶ ⏭) を使って他の曲を選んだ場合は、その曲を繰り返し再生します。
- 停止中は、プレイモードボタン (PLAY MODE) を押してから本体のスキップつまみ (⏮/⏭) またはリモコンのスキップ / サーチボタン (⏮ ◀◀ ▶▶ ⏭) で曲を選び、再生 / 一時停止ボタン (▶/❚❚) を押すと、1 曲リピート再生を始めます。
- プログラム再生中は、再生中の曲が繰り返し再生されます。

REPEAT ALL(全曲リピート)

プレイモードボタン (PLAY MODE) を 2 度 (MP3/WMA ディスクの場合は 3 度) 押します。
ディスプレーに「REPEAT ALL」と表示され、全曲が繰り返し再生されます。

- プログラム再生中は、プログラムした曲が繰り返し再生されます。

REPEAT FOLDER(フォルダーリピート)
(MP3/WMA ディスクのみ)

プレイモードボタン (PLAY MODE) を 2 度押します。ディスプレーに「REPEAT FOLDER」と表示され、選択中のフォルダーの曲が繰り返し再生されます。

シャッフル再生

ディスクの全曲がランダムに再生されます。

SHUFFLE(シャッフル)

ディスプレーに「SHUFFLE」と表示されるまで、プレイモードボタン (PLAY MODE) を繰り返し押します。

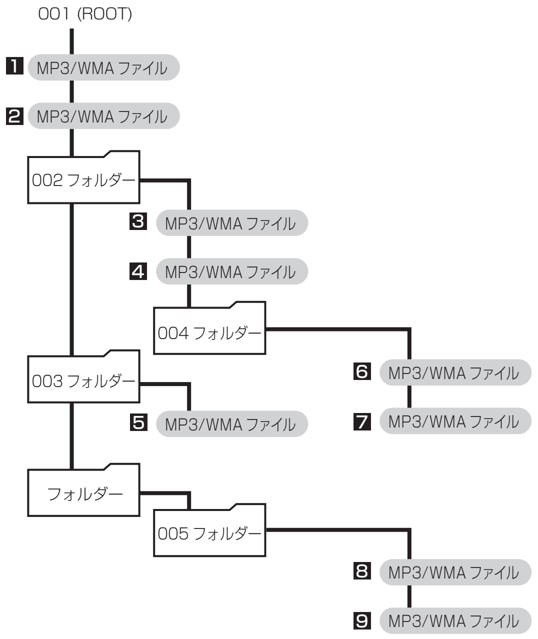
- シャッフル再生中に本体のスキップつまみを右に回す (⏭) か、リモコンのスキップ / サーチボタン (▶▶ ⏭) を押すと、次の曲がランダムに選択されて再生されます。
  本体のスキップつまみを左に回す (⏮) か、リモコンのスキップ / サーチボタン (⏮ ◀◀) を押すと、再生中の曲の頭に戻ります。
- プログラム再生中は、シャッフル再生はできません。

MP3/WMA ファイルについて

ファイルの再生順

MP3/WMA ファイルを記録したディスクには、通常のパソコンのファイルと同じように、MP3/WMA ファイルをフォルダーに格納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダーをまとめて 1 つのフォルダーに格納しているものもあります。

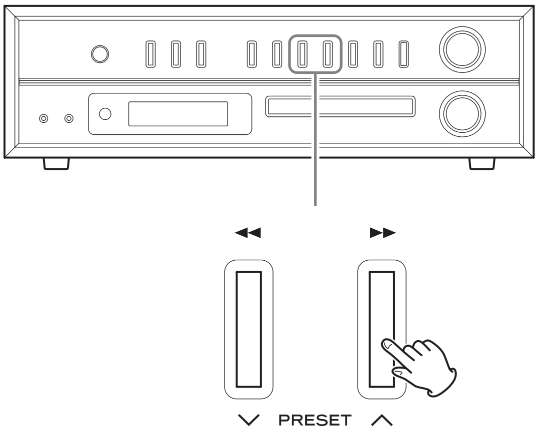
MP3/WMA ファイルが記録されたディスクをノーマル再生する場合の、フォルダー番号とファイルの再生順 (1～9) の例



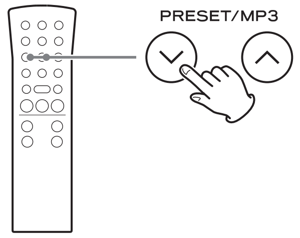
- 上記の図の順番は、ファイルやフォルダーを追加 / 削除 したり、位置を変えたりすることによって変わることが あります。

フォルダー / ファイルを選ぶ

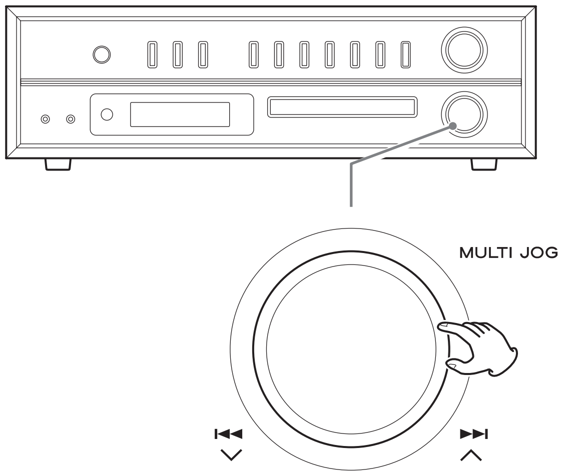
フォルダー番号を選ぶには、本体のサーチボタン (◀◀/▶▶) を押します。



リモコンで操作する場合は、MP3 ボタン (MP3 ∨/∧) を押します。



ファイル番号を選ぶには、本体のスクロールつまみ (MULTI JOG) を回します。

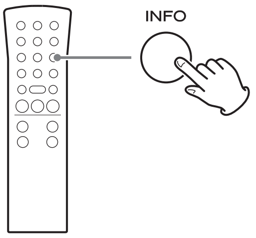


リモコンで操作する場合は、スキップ / サーチボタン (|◀◀ ◀◀ ▶▶ ▶▶|) を押します。

- フォルダー / ファイル番号を選んだ後、再生 / 一時停止ボタン (▶/II) を押して再生をはじめて下さい。5秒間再生ボタンを押さないと、停止状態になります。

MP3/WMA ファイルについて (続き)

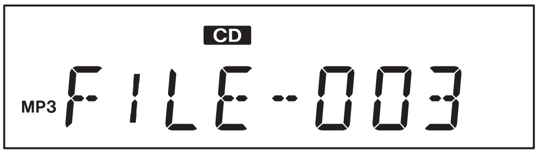
ディスプレーの切り換え



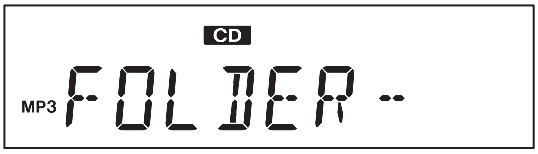
再生中に情報表示ボタン (INFO) を押すたびに、以下のファイル情報が切り替わります。

- タイトル / アーティスト / アルバムの最初の 32 文字が表示されます。
- 本機のディスプレーは、半角のアルファベットと数字 (1 バイト文字) の表示のみに対応しています。日本語や中国語などの全角文字 (2 バイト文字) が使われている場合、ファイル再生は可能ですが、ディスプレーに文字が正しく表示されません。（文字化けを起こします。）
- 各表示は 3 回スクロール表示すると、再生中の経過時間表示に戻ります。
- WMA ディスクの場合、ディスプレー左側に「WMA」と表示されます。

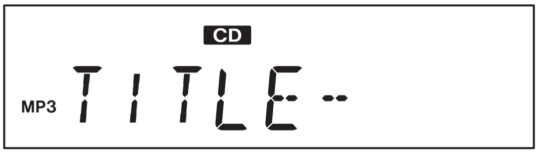
表示例



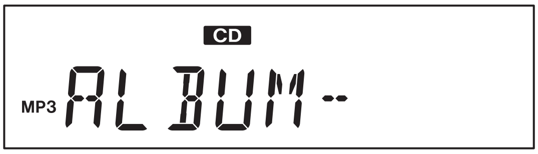
ファイル名



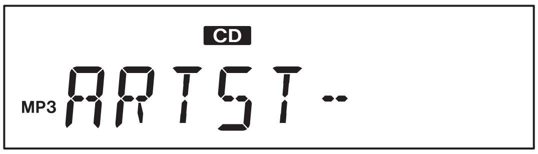
フォルダー名



タイトル名



アルバム名

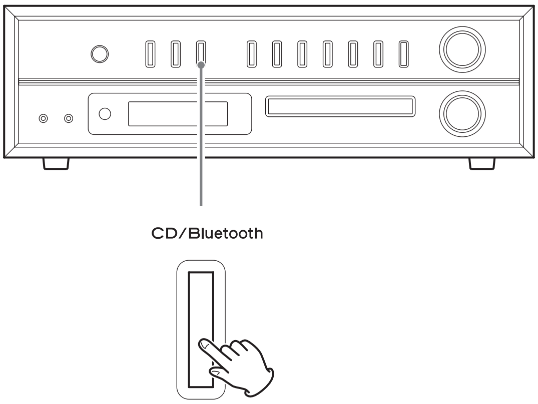


アーティスト名

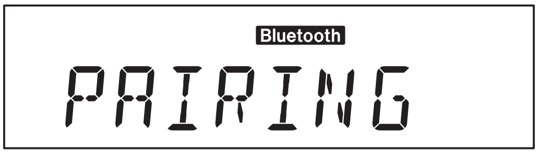
Bluetooth 機器を聴く

本機では、他の Bluetooth 搭載機器で再生する音楽をワイヤレス (ケーブルの接続が不要) でお楽しみいただくことができます。

1 ファンクション切換ボタン (CD/Bluetooth) を押して「Bluetooth」を選ぶ。

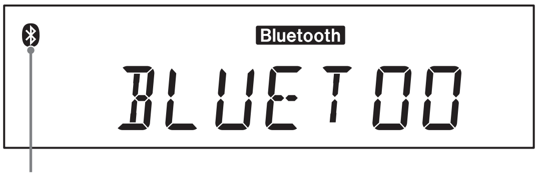


ディスプレーに「PAIRING」と表示され、ペアリングされている機器を検索します。



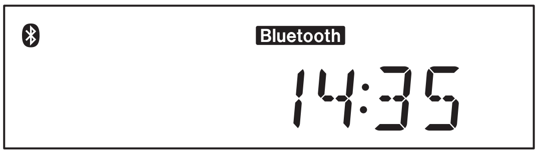
- ファンクション切換ボタン (CD/Bluetooth) を押して「Bluetooth」を選ぶと Bluetooth インジケーターが点灯します。

Bluetooth 機器との接続が成功すると Bluetooth フィギュアマーク ( ) が表示され、接続された Bluetooth 機器名がスクロール表示されます。



Bluetooth フィギュアマーク

接続された Bluetooth 機器名を 5 回スクロール後、時間表時



- 前回接続していた機器に自動的に接続を試みます。
- 2 分間接続できなかった場合は「NO DEVICE CONNECTED」(接続機器がありません) とスクロール表示されます。
- 初めて本機を使用する場合や、新しい Bluetooth 機器を接続する場合は、ペアリングを行ってください。
- 接続に失敗した場合は、Bluetooth 機器を接続可能な状態にしてください。
- 使用中に接続が切れて、本機のディスプレーに、「NO DEVICE CONNECTED」(接続機器がありません) とスクロール表示された場合は、Bluetooth 機器側で本機との接続操作をしてください。

2 Bluetooth 機器を操作して再生を始める

接続する Bluetooth 機器が AVRCP に対応している場合、本体またはリモコンで接続機器の再生、一時停止、停止操作を行うことができます。
お使いの Bluetooth 機器によっては、リモコン動作に対応していない場合や、実際の動作が異なる場合があります。

- 音量の調節はできません。

AVRCP(Audio/Video Remote Control Profile)
Bluetooth 機器の再生を制御するためのには、Bluetooth 機器が AVRCP に対応している必要があります。
ただし、Bluetooth 機器の仕様により、機能が異なる場合があります。

- Bluetooth 機器によっては、曲のスキップ動作を本体のスキップつまみ (⏮ / ⏭) で行えないことがあります。この場合、本体のサーチボタン (◀◀ / ▶▶) で動作させてください。
- 本機で Bluetooth 機器の再生を制御できない場合は、直接 Bluetooth 機器を操作してください。

接続を解除する

ペアリングボタン (PAIRING) を押すと接続が解除されます。

- 再び本機と接続したいときは、再度 Bluetooth 機器側で本機との接続操作をしてください。
- ペアリングの機器情報は個別に削除できません。

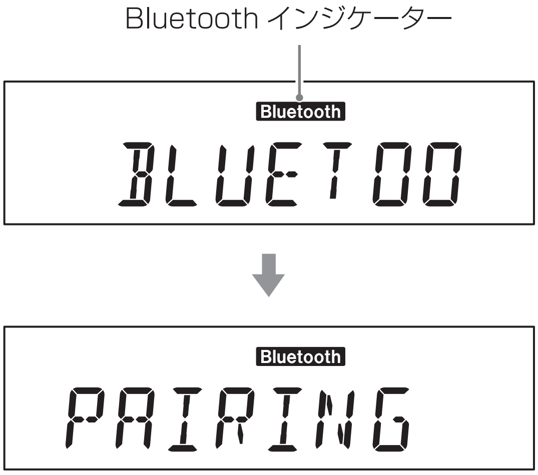
Bluetooth 機器をペアリングする

初めて本機を使用する場合や、新しい Bluetooth 機器を接続して Bluetooth 機器を聴く場合は、あらかじめペアリングを行う必要があります。
以下の手順でペアリングを行ってください。

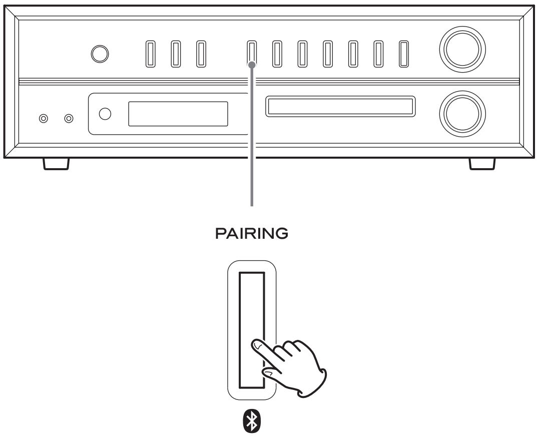
ペアリングする

1 ファンクション切換ボタン (CD/Bluetooth) を押して「Bluetooth」を選ぶ。

ディスプレーに「BLUETOOTH」がスクロール表示され、「PAIRING」と表示されて、ペアリング可能な状態になります。



2 分間接続できなかった場合は「NO DEVICE CONNECTED」(接続機器がありません) とスクロール表示されます。
この状態からペアリングを行うには、ペアリングボタン (PAIRING) を押して本機をペアリングモードにしてください。ディスプレーに「PAIRING」と表示されます。



2 Bluetooth 機器を Bluetooth 通信状態に設定する。

3 Bluetooth 機器から本機「LP-P1000」を選択して接続する。

- ペアリング時にパスキーを求められた場合は「0000」を入力してください。

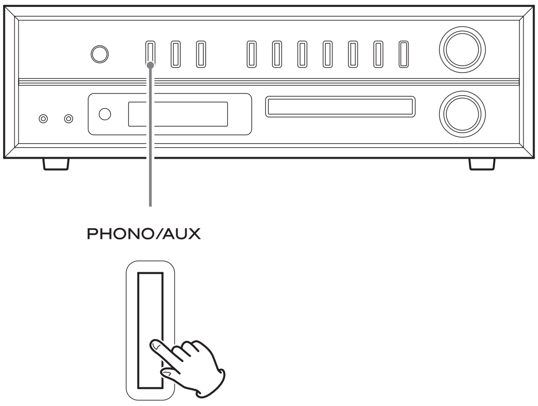
接続に成功すると「ピピッ」という電子音が鳴り、ディスプレーに Bluetooth フィギュアマーク ( ) が表示されます。

- 2 分経過して Bluetooth 機器との接続が成功しなかった場合、本機のディスプレーに「NO DEVICE CONNECTED」(接続機器がありません) とスクロール表示されペアリングモードは終了します。
- 本機は 5 台までペアリングできる機器情報を記憶しています。5 台を超えてペアリングを行った場合は最も古いペアリング情報が消去されて新しいペアリング情報が追加されます。
- Bluetooth 機器接続中にファンクション切換ボタンで入力を切り換えたり、電源ボタン (STANDBY/ON) で電源をスタンバイ状態にして再びオンにすると、最後に接続した Bluetooth 機器と自動接続をします。
- Bluetooth 機器側から接続を解除されると本機は「NO DEVICE CONNECTED」(接続機器がありません) を表示します。
- 本機がペアリングモードになったとき、Bluetooth 機器側が接続待機状態になっていれば、ペアリングが自動で行われます。

レコードを聴くには

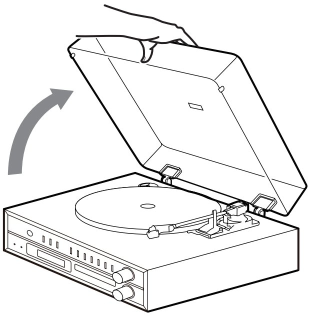
お使いになる前に、輸送用のネジをコインなどを使って時計回りに止まるまで回してください。レコード針のカバー (白いプラスチック製) を外してください。(18 ページ)

1 **ファンクション切換ボタン (PHONO/AUX) を押して PHONO を選ぶ。**



ファンクション切換ボタン (PHONO/AUX) を押すたびに、PHONO(レコード)、AUX(外部機器) と順番に切り替わります。

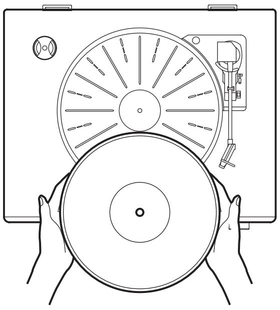
2 **ゆっくりとターンテーブルカバーを開ける。**



⚠ **ターンテーブルカバーを開閉するときは、手などをはさまないようにご注意ください。**

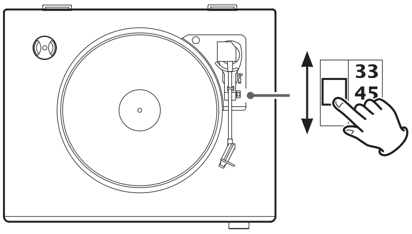
3 **ターンテーブルにレコードをのせる。**

ドーナツ (EP) 盤を再生する場合には、付属の EP アダプターをご使用ください。

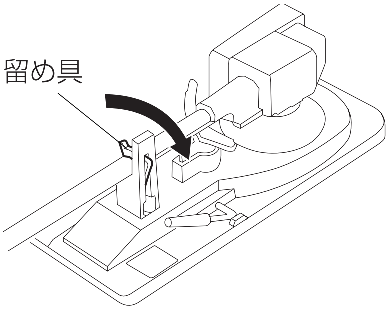


4 **レコード盤に合わせて回転数を選ぶ。**

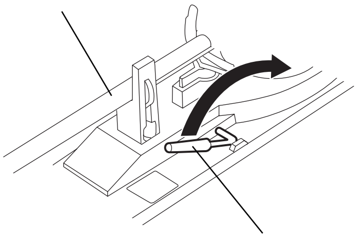
回転数は 33 1/3、45、78 回転の 3 種類あります。



5 **トーンアームの留め具を右にずらして外す。**



6 **キューレバーを上げて、トーンアームを浮かせます。**

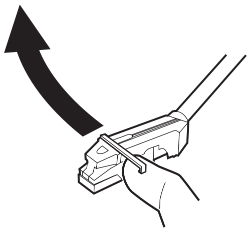


- キューレバーを下げたまま、トーンアームを浮かせた状態でレコードの上に移動してから、トーンアームをゆっくりと下げて再生を始めることもできます。

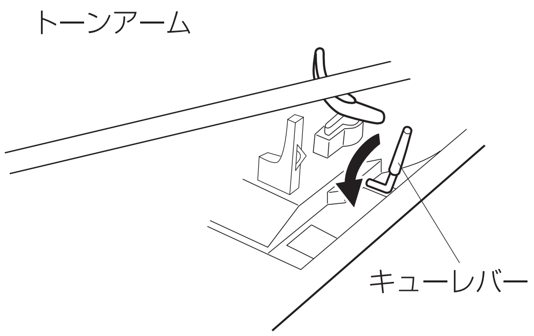
次のページへ続きます。➡

7 レコードの端、または再生したい箇所までトーンアームを移動する。

トーンアームを内側へ動かすと、ターンテーブルが回り始めます。



8 キューレバーをゆっくり下げてトーンアームをゆっくりと下ろす。



- レコードの再生中は、ほこりを防ぐためにターンテーブルカバーを閉めることもできます。

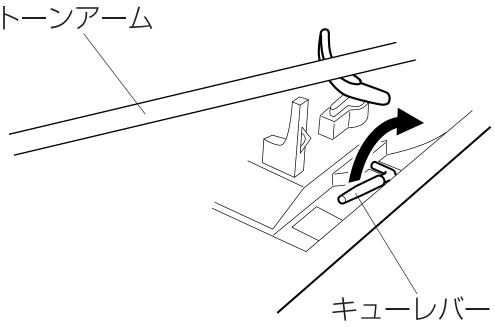
⚠ **ターンテーブルカバーの上には物を置かないでください。特に再生中は、振動でノイズが発生したり、物が落下する恐れがあります。**

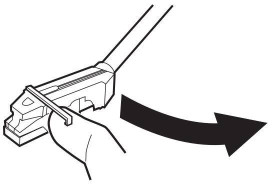
> レコードの再生時に音を大きくしすぎると、ハウリングが起こることがあります。その場合は、音量つまみ (VOLUME) を左に回して音量を下げてください。

再生が終わったら

再生が終わると、トーンアームが自動的に元の位置に戻ってターンテーブルの回転が止まります（オートリターン機能）。

- 手動で再生を中断したいときは、キューレバーまたは指でトーンアームを持ち上げてから、トーンアームを元の位置に戻してください。

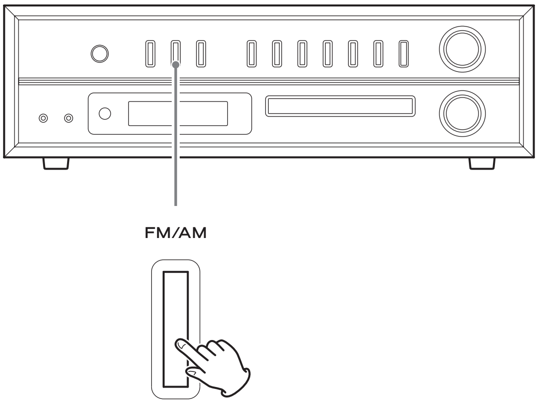




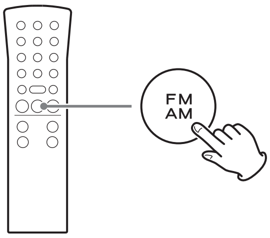
> レコードによっては、オートリターンしないことがあります。その場合は、手動でトーンアームを元の位置に戻してください。

ラジオを聴くには

ファンクション切換ボタン (FM/AM) を押して FM 放送または AM 放送を選びます。

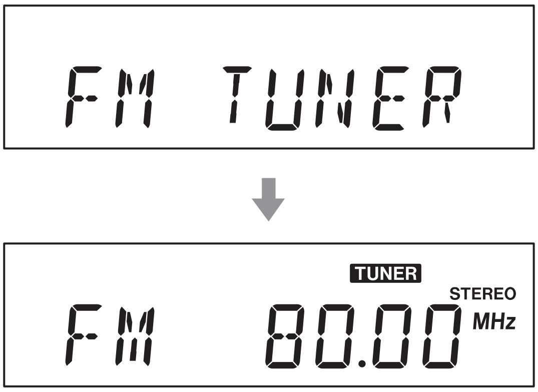


リモコンで操作する場合

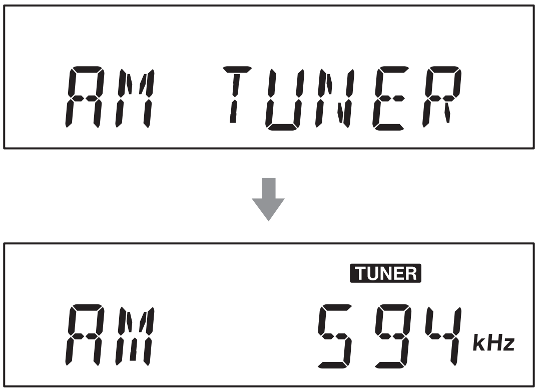


FM/AM ボタンを押すたびに、FM 放送と AM 放送が切り換わります。

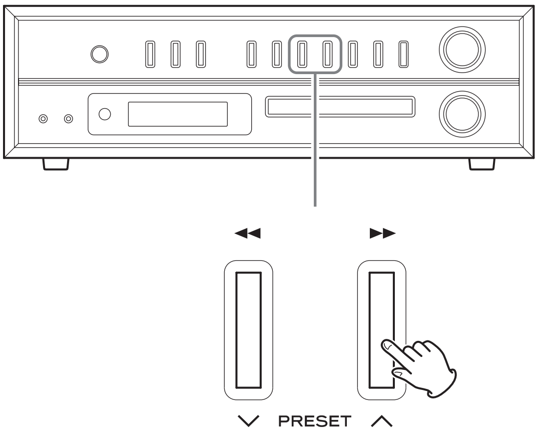
FM 放送受信時の例



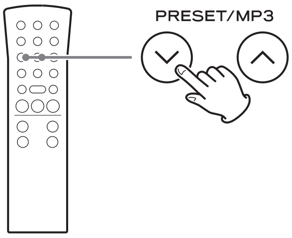
AM 放送受信時の例



自動選局



リモコンで操作する場合



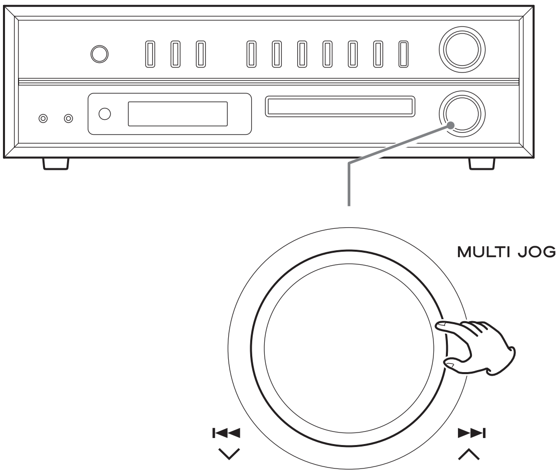
周波数が変わり始めるまで選局ボタン (PRESET ∨/∧) を押してください。周波数が変わり始めてから指を離すと自動選局が始まります。自動選曲している間ディスプレーに「SEARCH」(選局中) と表示されます。

表示例

- 放送局を受信すると、自動的に選局が終わります。
- 自動選局を中止したいときは、選局ボタン (PRESET ∨/∧) を押します。
- 受信状態が悪かったり、アンテナが外れている場合、「PLEASE CHECK ANTENNA」(アンテナをチェックしてください) とスクロール表示されます。アンテナの状態を確認してから再度操作をしてください。

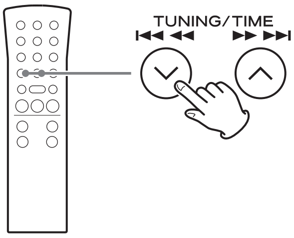
ラジオを聴くには (続き)

手動選局



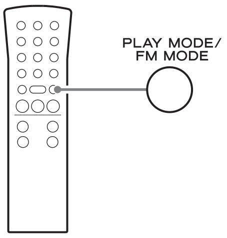
スクロールつまみ (MULTI JOG) を回して、受信周波数を変えてください。
受信周波数は、右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

リモコンで操作する場合



チューニングボタン (TUNING ∨/∧) を短く押すと、周波数は一定のステップで変わります。
聴きたい局が見つかるまで、チューニングボタン (TUNING/TIME ∨/∧) を繰り返し押してください。

FM モードボタン



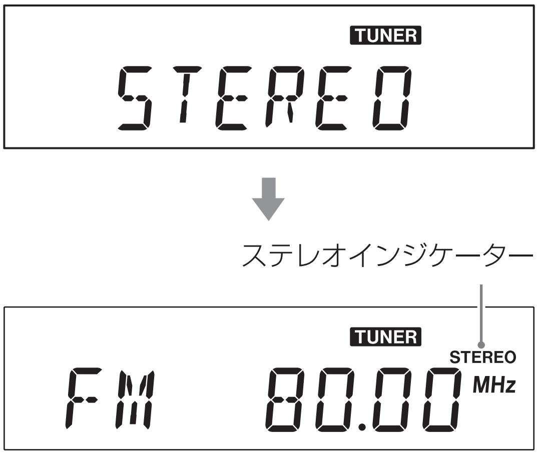
FM 放送を受信中に FM モードボタン (FM MODE) を押すとステレオモードとモノラルモードが切り換わります。

ステレオモード選択

FM 放送がステレオで受信されると、STEREO インジケーターが点灯します。

- 受信状況が悪いと STEREO インジケーターは点灯しません。

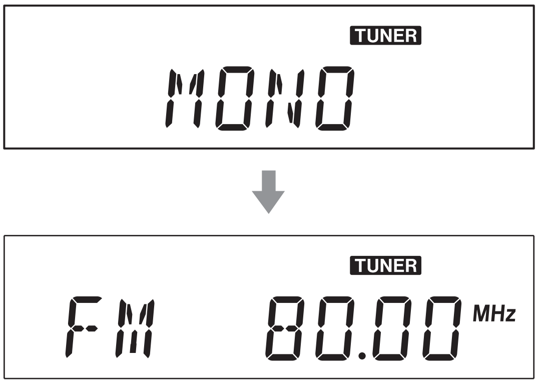
表示例



モノラルモード選択

FM 放送の受信状態が悪いときに、このモードを選んでください。
モノラルで受信して、聞きやすい状態で使用してください。

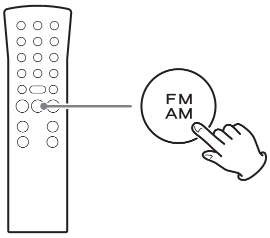
表示例



放送局のプリセット

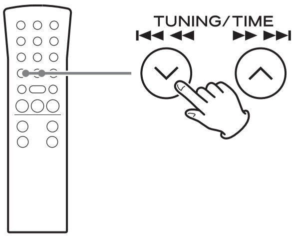
プリセットチャンネルに、よく聴く FM/AM 放送局を各 20 局まで、登録できます。

1 **ファンクション切換ボタン (FM/AM) を押して FM 放送または AM 放送を選ぶ。**



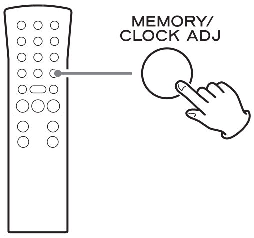
FM/AM ボタンを押すたびに、FM 放送と AM 放送が切り換わります。

2 **チューニングボタン (TUNING ∨/∧) を押して、聴きたい放送局を探す。**

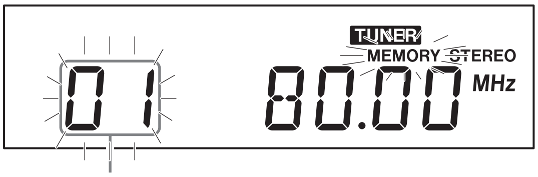


3 **放送局が決まったら、メモリーボタン (MEMORY) を押す。**

ブリセットチャンネルと MEMORY インジケーターが点滅します。

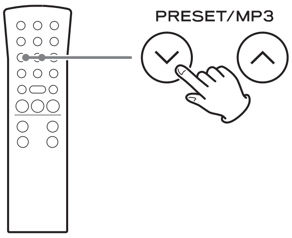


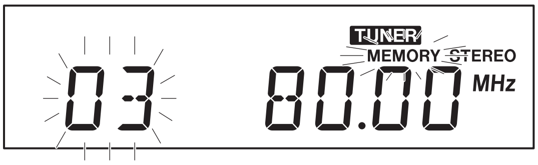
表示例



ブリセットチャンネル

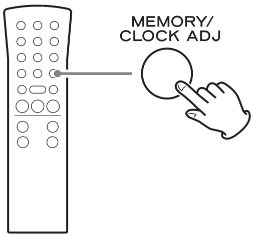
4 **プリセットボタンを押して、放送局を登録するプリセットチャンネルを選ぶ。**





5 **メモリーボタン (MEMORY) を押して登録する。**

放送局が登録され、ブリセットチャンネルと MEMORY インジケーターが点滅から点灯に変わります。



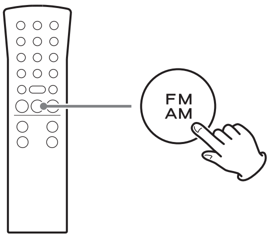
他の放送局をさらに登録するときは、手順 **1** から **5** を繰り返します。

放送局のプリセット (続き)

自動プリセット

受信可能な放送局を自動で探して登録することができます。

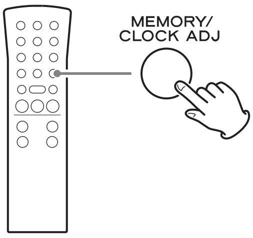
1 **ファンクション切換ボタン (FM/AM) を押して FM 放送または AM 放送を選ぶ。**



FM/AM ボタンを押すたびに、FM 放送と AM 放送が切り換わります。

2 **メモリーボタン (MEMORY) を 2 秒以上押す。**

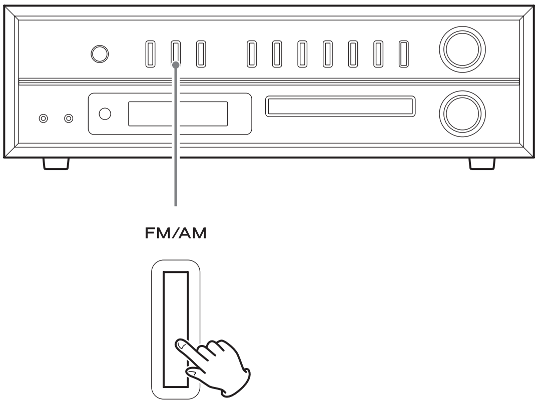
ディスプレーに「AUTO」と表示され、受信可能な放送局が自動で登録されます。



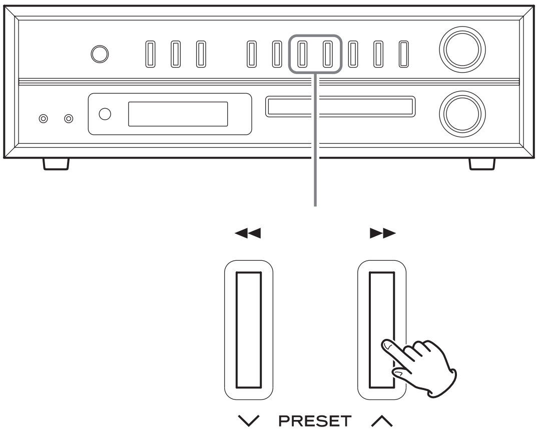
- 20 局まで自動プリセットが終わったら、「PROG FULL」を表示してから、プリセット 01 を表示し、受信します。

登録した放送局を聴く

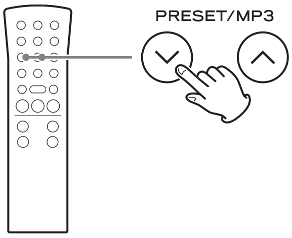
1 **ファンクション切換ボタン (FM/AM) を押してバンドを選ぶ。**



2 **選局ボタン (PRESET ∨/∧) を繰り返し押して、聴きたい放送局が登録されているプリセットチャンネルを選ぶ。**



リモコンで操作する場合



ディスプレー左側にプリセットされた番号が表示されます。

3 番目のプリセットを選んだ例

- プリセットした放送局を選択しているときは、MEMORY インジケーターが点灯します。
- 手動選局するとプリセット番号が消え、MEMORY インジケーターが消灯します。

目覚ましタイマー

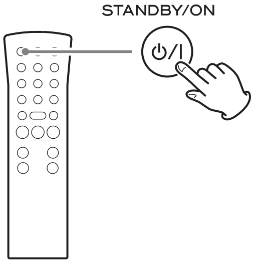
設定した時間になるとスピーカーから音が出ます。

- 目覚ましタイマーを設定する前に、現在時刻を設定してください。(16 ページ)

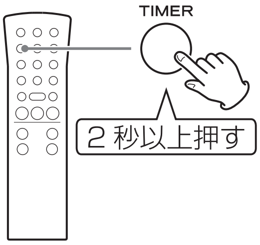
タイマーを設定する

1 電源をスタンバイにする。

タイマー設定は、スタンバイ状態で行います。
電源ボタンの周囲が青く光っていると電源がオンになっています。電源ボタン (STANDBY/ON) を押して、スタンバイ状態にしてください。



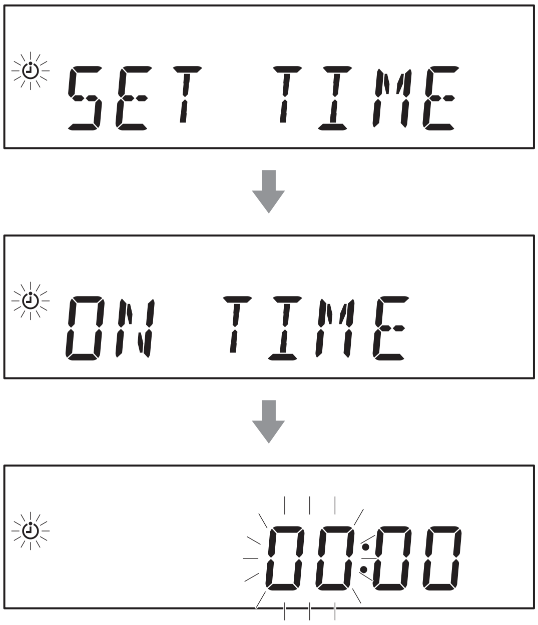
2 タイマーボタン (TIMER) を 2 秒以上押し続ける。



タイマーインジケーター (⏻) が点滅し、「SET TIMER」が 1 回スクロール表示され、「ON TIME」が表示された後に時間入力画面になります。

次のページへ続きます。➡

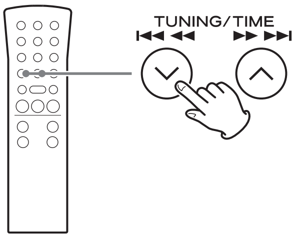
表示例



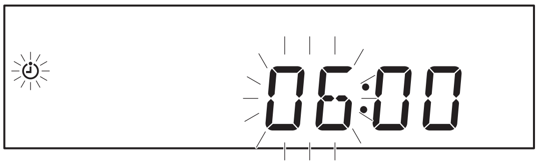
「 時 」表示が点滅します。

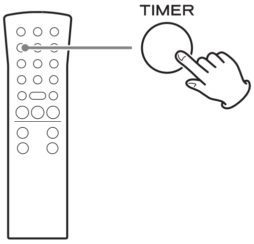
- 10 秒以上放置すると、タイマー設定モードは解除されます。

3 時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して、タイマー開始時刻の「時」を合わせ、タイマーボタン (TIMER) を押す。



表示例





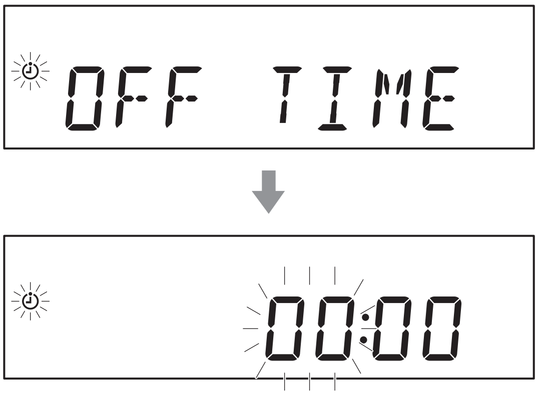
- 「時」を確定すると「 分 」表示が点滅します。

4 時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して、タイマー開始時刻の「分」を合わせ、タイマーボタン (TIMER) を押す。

表示例

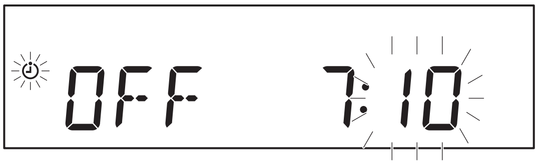
これで電源オンの時間が設定されました。

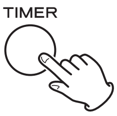
続いて「OFF TIME」が表示された後に、「 時 」表示が点滅します。



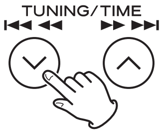
5 手順 3 〜 4 の操作を繰り返してタイマー停止時刻を設定する。

表示例

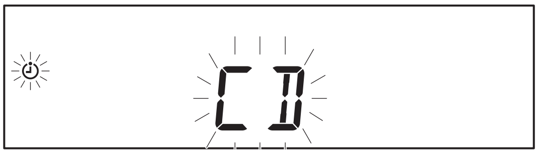


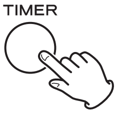


6 時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して、再生ソースを選び、タイマーボタン (TIMER) を押す。



表示例



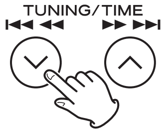


選択可能なソースは、「CD」、「FM TUNER」、「AM TUNER」です。
時間ボタン (TIME ∨/∧) を押す毎に以下のようにソースが変わります。

→ CD → FM TUNER → AM TUNER ─┐

「BLUETOOTH」、「PHONO」は設定できません。

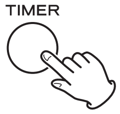
7 **時間ボタン (TIME ∨/∧) を押して、音量を設定する。**



音量は 5(最小) から 32(最大) の範囲で設定できます。

- タイマーがオンになったときの音量は徐々に大きくなり、設定した音量になります。

8 **タイマーボタン (TIMER) を押す。**



タイマーインジケーター

タイマーインジケーターが点灯します。
目覚ましタイマーの設定が終了しました。

- 停電時や電源プラグからコンセントが抜かれるとタイマー設定情報は保持されません。
- 電源オンの時間になり、動作が始まるとタイマーインジケーターが点滅します。

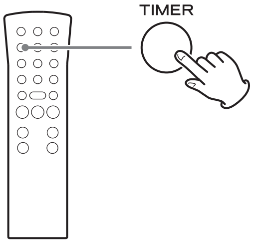
タイマーをオンにする前に、再生ソースなどを準備する。

再生ソースに「CD」が設定されているときは、ディスクをセットしてください。(セットされていない場合は「FM TUNER」になります)

目覚ましタイマーのオン、オフはスタンバイ状態で設定してください。

タイマーをオフにする

目覚ましタイマーを使わないときは、タイマーボタン (TIMER) を押してオフにしてください。

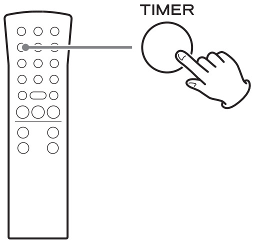


「TIMER OFF」がスクロール表示され、TIMER インジケーターが消えます。

- 目覚ましタイマーをオフにするには、スタンバイ、オンどちらの状態でも設定できます。

タイマーをオンにする

目覚ましタイマーを使うときは、再びタイマーボタン (TIMER) を押してください。



「TIMER ON」の表示後、設定内容がタイマー開始時刻、タイマー停止時刻、再生ソース、音量の順で表示し、タイマーインジケーターが表示され、タイマーオン待機状態になります。

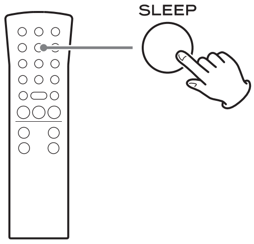
- タイマー再生中にタイマーボタン (TIMER) を押すと、タイマーが解除されます。タイマー停止時刻になっても電源はオフ (スタンバイ) になりません。
- 目覚ましタイマーをオンにするには、スタンバイ状態でなければ設定できません。

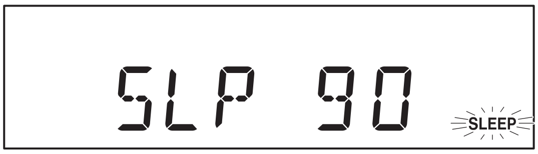
スリープタイマー

一定の時間が過ぎると電源をスタンバイ状態にします。

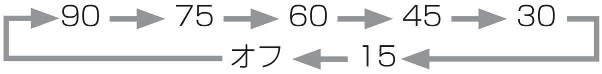
スリープタイマーを設定する

スリープボタン (SLEEP) を繰り返し押します。





以下のように電源がスタンバイになる時間 (分) が変わります。



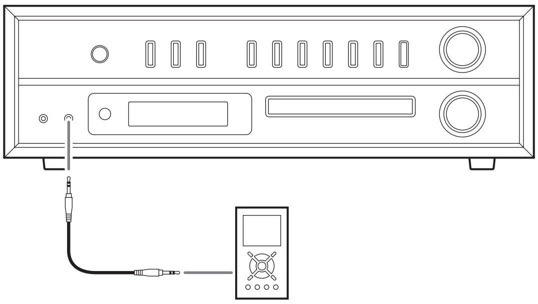
スリープタイマーが動作中のときは、ディスプレー右下に SLEEP インジケーターが表示されます。

- スリープタイマーが設定されている間は、ディスプレーが暗くなります。
- スリープタイマー動作中にスリープボタン (SLEEP) を 1 回押すと、電源がスタンバイになるまでの残り時間が数秒間表示されます。
- スリープタイマー動作中にスリープボタン (SLEEP) を 2 回押すと、スリープタイマーはオフになります。

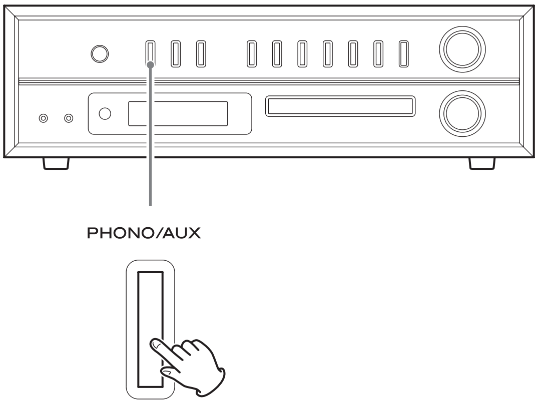
接続した機器の音を聴く

携帯型オーディオプレーヤーなどの音声出力端子またはヘッドホン端子と接続して、本機で音声を再生します。

1 フロントパネルのアナログ音声入力端子 (AUX 2 IN) と携帯型オーディオプレーヤーなどのヘッドホン端子 (または音声出力端子) とを、付属のステレオミニプラグケーブルで接続する。



2 ファンクション切換ボタン (PHONO/AUX) を押して「AUX」を選ぶ。



3 再生機器側の再生を開始し、本機と再生機器の両方で音量を調節する。

- プレーヤーのヘッドホン端子と接続した場合は、プレーヤー側の音量を上げないと、本機から音が出ません。
- プレーヤー側の音量を上げすぎると、音が歪むことがあります。その場合は、まず接続した機器の音量を歪みが無くなるまで小さくしてから、本機の音量を調節してください。

アナログ音声入力端子は、フロントパネルとリアパネルにあります。
フロントパネル側の端子 (AUX 2 IN) とリアパネル側の端子 (AUX 1 IN) の両端子にケーブルが接続されている場合、フロントパネル側の端子 (AUX 2 IN) が優先されます。
(AUX 2 IN) にプラグが差し込まれていない状態では、リアパネル側の端子 (AUX 1 IN) が使用されます。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、修理を依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。また、本機以外の原因も考えられますので、接続した機器の使用方法も併せてご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。

電源が入らない。

➡電源プラグをコンセントに差し込んでください。電源ボタンを押して電源をオンにしてください。コンセントに電気がきているか、デスクライトや卓上扇風機などをつないで確認してください。(12、22 ページ)

音がしない。

➡音量つまみ (VOLUME) を右に回して音量を調節してください。

リモコンで操作できない。

➡本体の電源ボタンを押して電源をオンにしてください。
➡電池が消耗している場合は、2 本とも新しい電池に交換してください。
➡本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から 5 メートル以内の距離で、本体のリモコン受光部に向けて操作してください。
➡本体の近くにライトなど強力な光源があるときは、光源の電源を切ってください。

近くにあるテレビなどが誤動作する。

➡ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。その場合は、本機のリモコンを操作する間は他の機器の電源を切ってください。

雑音がする。

➡テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

CD プレーヤー

再生できない。

➡ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
➡ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡何も録音されていないディスクが入っている場合は、録音されているディスクを入れてください。
➡ディスクの品質や録音状態によっては、CD-R/CD-RW を再生できないことがあります。
➡ファイナライズされていない CD-R/CD-RW は本機で再生できません。

音飛びがする。

➡震動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。
➡ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
➡傷が付いたディスクは使わないでください。

MP3/WMA ファイル

再生できない。

➡ファイルの拡張子を確認してください。MP3 ファイルの認識はファイル拡張子「.mp3」、WMA ファイルの認識はファイル拡張子「.wma」で行います。
➡MP3/WMA ファイルが破損している可能性があります。
➡本機で再生可能なファイルフォーマットなのか確認してください。(8 ページ)

曲名、アーティスト名、アルバム名が表示されない。

➡ファイルに ID3 タグが入っていません。パソコンなどで ID3 タグを編集した MP3/WMA ファイルを作成し直してください。

正しく表示されない文字がある。

➡ファイル名に日本語や中国語などの全角文字 (2 バイト文字) が使われている場合、再生は可能ですがディスプレーに正しく表示できません。

Bluetooth

ペアリングができない

➡Bluetooth 機器の取り扱い説明書を参照してください、

➡本機と Bluetooth 機器の電源を一度切り、再び電源を入れてペアリングを試してください。

➡ペアリングしようとする Bluetooth 機器以外の Bluetooth 機器の電源を切ってください。

➡Bluetooth 機器側の「LP-P1000」の登録を一度削除した後、再度ペアリングしてください。

接続ができない

➡Bluetooth 機器の電源が入っているか、Bluetooth が ON になっているか確認してください。

➡Bluetooth 機器との距離が離れすぎていませんか？
あるいは、壁などでさえぎられていませんか？
なるべく近い距離で障害物が無い環境でお使いください。

➡本機の電源をスタンバイ状態にして、再度本機の電源を ON にしてください。

➡Bluetooth 機器の「LP-P1000」のペアリングを解除し 36 ページの「Bluetooth 機器をペアリングする」の操作を行ってください。

音が途切れたり、雑音がする

➡無線 LAN や他の Bluetooth 機器、電子レンジなどが近くにありませんか？
なるべくそれらの機器から離してご使用ください。

➡Bluetooth 機器と本機の距離を近づけてご使用ください。

➡また、Bluetooth 機器や本機の位置を変えてください。

ラジオ

受信できない。受信状態が悪い。

➡選局ボタンを押して、放送を受信してください。

➡FM 放送の受信状態が悪いときは、FM アンテナを張り直してみてください。

➡AM 放送の受信状態が悪いときは、AM アンテナの向きを変えてみてください。

➡テレビが近くにあるときは、テレビの電源をオフにしてください。

FM で、ステレオ放送なのにモノラルになる。

➡FM モードボタン (FM MODE) を押して、ステレオ受信に切り換えてください。

➡受信局の電波状況が悪い可能性があります。FM アンテナの位置を調節してください。

レコード

再生できない。雑音が入る。

➡針のカバー (白いプラスチックの部分) を外してください。

➡レコード針をクリーニングしてください。(11 ページ)

➡レコード針が摩耗していたら、交換してください。

音程がおかしい。

➡レコードにあった回転速度を選んでください。(37 ページ)

音飛びがする。

➡震動を与えると音飛びします。本機は安定した場所に設置してください。

➡レコードが汚れている場合は、レコードを拭いてください。

➡傷が付いたレコードは使わないでください。

➡輸送用のネジをコインなどを使って時計回りに止まるまで回してください。

本機はマイコンを使用していますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源コンセントからプラグを抜いて約 1 分間お待ちください。再度コンセントにプラグを挿して始めから操作してください。

仕様

アンプ部

出力 . . . . 25W + 25W (6Ω)
周波数特性 . . . . 50Hz ～ 20kHz
入力感度 / インピーダンス . . AUX：500mV/20kΩ

CD 部

再生可能ディスク . . . . CD、CD-R、CD-RW
周波数特性 . . . . 20Hz ～ 20kHz
S/N 比 . . . . 70dB 以上

チューナー部

受信周波数 (FM) . . . . 76MHz ～ 90MHz
受信周波数 (AM). . . . . 522kHz ～ 1,629kHz

レコードプレーヤー部

モーター . . . . DC サーボモーター
ドライブ方式 . . . . ベルトドライブ
ターンテーブルスピード . . . 33 1/3、45、78 rpm
ワウ・フラッター . . . . 0.35% 以下
S/N 比 . . . . 50dB 以上
カートリッジ . . . . セラミックステレオタイプ
レコード針 . STL-103（サファイヤ針）/LP•EP 盤用
交換針（別売）
「STL-103」. LP•EP 盤用サファイヤ針（3 個入り）
「SPL-102」. . SP 盤用ダイヤモンド針（2 個入り）

本体

入力端子 . . . . .アナログ（RCA）×1
3.5mm ステレオミニジャック ×1
出力端子 . . . . .アナログ（RCA）×1
ヘッドホン出力端子
3.5mm ステレオミニジャック ×1
電源 . . . . 100 - 240V ～、50-60Hz
消費電力 25W
外形寸法 (幅、高さ、奥行)
460 x 215 x 380 mm (突起部を含む)
質量 . . . . . . 約 6.6kg(ターンテーブルカバーを含む)
動作保証温度 . . . . 5℃～ 35℃

スピーカー

エンクロージャー形式. . . . . .バスレフ（リア）
ユニット . . . . 4 インチ (ウーハー)
1.5 インチ (ツイーター)
インピーダンス 6Ω
外形寸法 (幅、高さ、奥行)
150 x 250 x 230 mm (突起部を含む)
質量 . . . . 約 2.8kg / 台

付属品

スピーカー 1 ペア
リモコン (RC-1312) x 1
ドーナツ盤用アダプター x 1
LP・EP 盤用サファイヤ針 (装着済み)
ターンテーブル保護ラバーシート x 1
ターンテーブルカバー x 1
ヒンジ x 2
リモコン用乾電池 (単 3) x 2
AM アンテナ x 1
FM アンテナ (ケーブルタイプ) x 1
ステレオミニプラグケーブル (50cm) x 1
スピーカーケーブル (3m) x 2
取扱説明書 (保証書付き)(本書) x 1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

■保証書

取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。保証期間はお買い上げ日より1年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を製造打ち切り後 8 年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または弊社サービス部門 (裏表紙に記載) にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

47 ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

その他：製品を送るために必要な送料 / 梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ターンテーブルオーディオシステム
LP-P1000
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況 (できるだけ詳しく)

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

保 証 書

品 名 および 型 名	ターンテーブルオーディオシステム LP-P1000	
機 番		
保 証 期 間	本 体	1 年

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

お買上げ日		年 月 日
お 客 様	お名前	
	ご住所	電話 ( )

販売店	所在地・名称(印) 電話 ( )

見本

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) メンテナンス
   (7) 本書の提示がない場合
   (8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせは

AVお客様相談室までご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

AVお客様相談室

市内通話料金でOK ナビダイヤル 0570-000-701
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
〒206-8530 東京都多摩市落合1-47
電話：042-356-9235 / FAX：042-356-9242

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター

市内通話料金でOK ナビダイヤル 0570-000-501
一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858
電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

- ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号にお掛けください。
- 新電電各社をお使いの場合はナビダイヤルをご利用いただけないことがあります。その場合はご契約されている新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号にお掛けください。
- 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1013 MA-1978A